

「専業林家がFSCを取得し 更新を断念した経緯と 現在の林業経営」

2024. 05. 27

吉田 正木

吉田本家山林部 代表

株式会社ひのき家 代表取締役

(一社)日本林業経営者協会 監事 青年部会長

三重県林業経営者協会 副会長兼常任世話人(事務局)

日本木材青壮年団体連合会 令和5年度広報戦略委員長

LEAF(Learning about Forests) ナショナルインストラクター

吉田本家山林部の歴史と自己紹介

吉田本家山林部の歴史

- 関ヶ原の戦いにて西軍につく
- 二君につくを潔しとせず
- 西日本を転々とする
- 現在の大紀町滝原 野後村 に定住する
- 醸造業で産をなす
- 放蕩の者此れ有 家産大いに傾けり
- 働き者此れ有 昼夜の別なく働きて家産を基に戻す
- 清三郎 初代 善三郎を襲名す 時に元禄15年

江戸時代

- 地主
- 江戸に店を出す
- 当時の紀伊半島では伐採跡地に造林した者の所有を認める造林推奨策がとられていた
- 徐々に山林を増やす
 - ↑ 現在に至る里に近く点在した山林
- 地域と共に
- 一揆が地主を襲って北上した際、地域の住民に守られる

明治以降

- 野後尋常小学校創立に貢献
- 明治32年 合名会社 吉田銀行
後に百五銀行に吸収
- 第二次大戦時に海軍へ大径材を供出
- 戦後農地解放により農地を手放す
- 林地が残り 林業専門に
- 父 勝幸 近代的な林業経営を目指す
速水林業 速水勉 氏
諸戸林産 諸戸民和 氏 らに教わる

- 管理人による管理→職員による管理
- 従業員雇用の通年化
- 路網の開設
- 枝打 間伐の実施
- 立木入札による販売
- 足場丸太
- 40～60年 間伐 ヒノキ 無地柱材
- 60～80年生 主伐 →再造林
- 平成2年台風19号で大きな山林被害
- 風倒木の処理（当時は材価が高い）
- 平成4年 語らいの里・嘶野を開設
- 11代 善三郎を襲名 平成5年 50歳
- 自社職員による木材生産の取り組み

- 平成7年阪神大震災を契機に 柱材 役物の
需要減少
- 材価の下落 立木入札の落札金額が半分ほ
どに 人件費は上昇
- 父 60歳になったら引退する
- 林業からの撤退も含め自分で判断しろ

自己紹介

- 1978年 三重県 生まれ(45歳)
- 1997年学校法人梅村学園 三重高校卒業
- 1997年4月 慶應義塾大学総合政策学部入学
- 2年次より「加藤秀樹ゼミ」所属
「物事の本質を考える」
- 父より2003年での引退を告げられる
- 2001年3月 慶應義塾大学総合政策学部卒業
- 2001年4月 三重大学 生物資源学部
- 森林社会学研究室(三井教授) 研究生
(~2003年3月)

「森林認証制度の研究」

林業を行う意義 (2000年頃 吉田の整理)

- 人類が地球上で文明を享受しつつ生存してゆくには資源が必要
- 資源は有限
- 化石資源は長い年月を経てできたもの
- 近年 短期間に消費している
- 環境問題 資源問題が大きな課題に
- 木材は持続的利用が可能な資源
- 地球規模では森林の減少 破壊が進行
- 日本では資源としての蓄積を高めることに成功
- ↑ 林業 今後も木質資源を供給する意義

- 三重大学で研究生をしつつ家業に従事
- 2000年 速水林業日本で最初のFSC認証取得
- 林業の継続とFSC認証の取得を決める
- 速水林業 速水亨氏に教わる
- 日本林業経営者協会などに出席
- ヨーロッパ等の森林視察研修に参加

- 当時の林業事情
- 国産材自給率 18.8% (2002年 最低)
- 外材輸入を減らせ、関税を上げろの声も
- WTOの体制下では難しい
- 違法伐採の疑いの木材が流入
- 適切な森林管理から生産された木材と違法伐採の木材を区別する
- そのツールとして森林認証が最適
- 欧州などでは認証が普及
- 日本でも認証がスタンダードになるのでは

- 当時の議論

「木材価格の低迷の中、間伐が進まない、もっと間伐に補助金が必要だ」

私の疑問 「補助金を出して間伐材を多く生産すれば更に木材価格がさがりませんか？」

速水氏の答え 「その通り、そのことに気づいてないことが問題なんだ」

FSC FM及びCOC認証の取得

- 2003年1月31日 父引退 正木 代表に
- 経営面積1250ha
- ヒノキ870ha スギ187ha 天然林 138ha
- 2003年3月13日 FSC認証を取得
(~2018年3月)
- 当時の材価 丸太 34,746円/m³
- 販売量 4,000m³
- 30,000円 × 4,000m³ 120,000,000円
であれば継続可能な体制へ向けて

吉田本家山林部FSC認証取得体験記

吉田本家山林部 代表 吉田正木

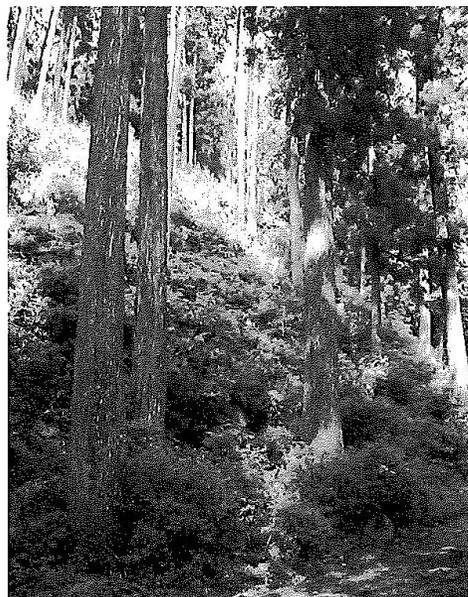
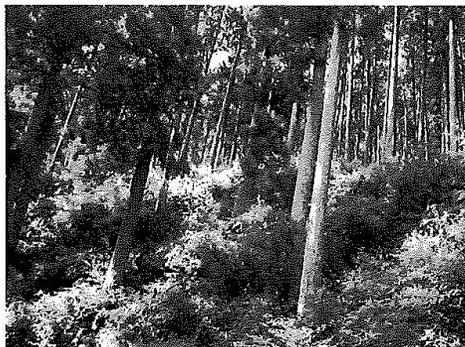
認証審査過程

2000年の9月に三重県海山町の速水林業が日本で第一号のFSCによる森林認証を取得して以来、認証制度への関心が高まる中、吉田本家山林部でも認証取得を検討することとなった。

すでに速水林業での具体的な話を聞いていた為、認証の取得には少なからぬ経費と、準備作業を要することは分かっていたため、改めて認証取得する目的を明確にすることから始めた。その結果私なりにFSC認証に対して以下のように考え方を整理した。

- ・現状のやり方では林業経営はなりたたなくなる。
- ・材価低迷の一因として違法伐採による木材がかなりの量日本の市場に入ってきていることがあげられる。それらを市場から駆逐するためには我々の生産する木材が違法伐採によるものとどう違うのか、証明することが求められる。
- ・PEFCなど地域ごとの認証も広まってきており、ヨーロッパなどから認証材が環境に配慮した森林から生産された木材として大量に入ってくる可能性が考えられる。その際、認証のない国産材は環境に配慮していないと消費者に誤解を与える恐れがある。
- ・農業の分野では生産者の顔のみえる作物が評価を受ける時代になっている。これまで一方通行であった木材の流通においても、FSC認証を取得しCOCによるラベリングを通して消費者、加工者と我々生産者を結ぶことができる。
- ・日本の伝統的林業経営は世界の林業経営中でも環境負荷が小さく、吉田本家山林部では300年に渡り、持続可能な森林経営を続けてきた自負がある。
- ・様々な製品について生産過程の環境や

認証森林



- ・現状のやり方では林業経営はなりたたなくなる。
- ・材価低迷の一因として違法伐採による木材がかなりの量日本の市場に入ってきていることがあげられる。それらを市場から駆逐するためには我々の生産する木材が違法伐採によるものとどう違うのか，証明することが求められる。
- ・PEFCなど地域ごとの認証も広まってきており，ヨーロッパなどから認証材が環境に配慮した森林から生産された木材として大量に入ってくる可能性が考えられる。その際，認証のない国産材は環境に配慮していないと消費者に誤解を与える恐れがある。
- ・農業の分野では生産者の顔のみえる作物が評価を受ける時代になっている。これまで一方通行であった木材の流通においても，FSC認証を取得しCOCによるラベリングを通して消費者，加工者と我々生産者を結ぶことができる。
- ・日本の伝統的林業経営は世界の林業経営中でも環境負荷が小さく，吉田本家山林部では300年に渡り，持続可能な森林経営を続けてきた自負がある。
- ・様々な製品について生産過程の環境や



社会面での説明責任が求められている。FSCはそれを証明するものとなる。

認証取得

半年少し過ぎた2003年3月森林が認証され認証書とレポートが届いた。認証書はあっさりとしたA4版の少し厚手の紙一枚で、事務所に掲げるには地味すぎ少々残念に思った。せめて額だけでもと認証材で額を製作しているところである。認証に際しては審査後の報告で指摘された二つの条件が提示された。

条件2002.1

森林管理者は、森林作業員に支給される安全装備を、ILOのガイドラインに準じて改善するために、計画と予定を作成すること。この計画を実行すること。FSC基準4.2.4,4.2.5

条件2002.3

森林管理者は、安定した生産量、経済性の持続可能性の達成を目的として、持続可能な収穫レベルを達成するための短期（5年）および中期（20年）にわたる計画を再検討すること。この計画では林齢構成の再構築、およびバッファゾーン設定の効果を考慮すべきである。中期伐採計画は、伐採予定地、予測生産量、齢級分布と長期生産性への効果を明確に示したものを作成すること。

条件2点については第1回年次監査より前に改善計画を準備し、第2回の年次監査までに計画を実行することが必要となる。その他4点の勧告が示された。

吉田本家山林部の経営理念(2003年当時)

- 吉田本家山林部では地球環境への負荷が小さく、再生産可能な資源である木材資源を安定的に供給することで、循環型社会においてその役割を果たしてゆく。
- 吉田本家山林部では地域から従業員を雇用し、地域に木材を供給し、また地域の商店等との関係を大切にし、地域社会に貢献してゆく。
- 吉田本家山林部では人々の利益となるような森林管理を心がけ、森林の持つ多面的機能を十分発揮するような施業を行う。
- 吉田本家山林部は将来世代への預かりものである森林を適切に管理し、次世代に引き継いでゆく。
- 吉田本家山林部では森林の文化を発信し、森林の恵みを活かし、森林で遊び、愛する人を育てる。

森林認証取得後

- 2003年認証取得
- 同時期に地域の製材所、建設会社にも声をかけCOCを取得
- 県内で多数の森林組合も取得
- 認証材流通の流れをつくり出せず。認証とりやめ

- 吉田本家山林部は認証継続
- 毎年の年次監査
- 5年毎に更新審査
- WWF山笑会の見学会
- FSCジャパンの会員として活動
- FSC理事会の受入れ
- 管理木材ナショナルリスクアセスメント(NRA)ワーキンググループに参加(2015~2017)
- フォレストック認定取得 (2012~)

認証更新の断念

それから20年間

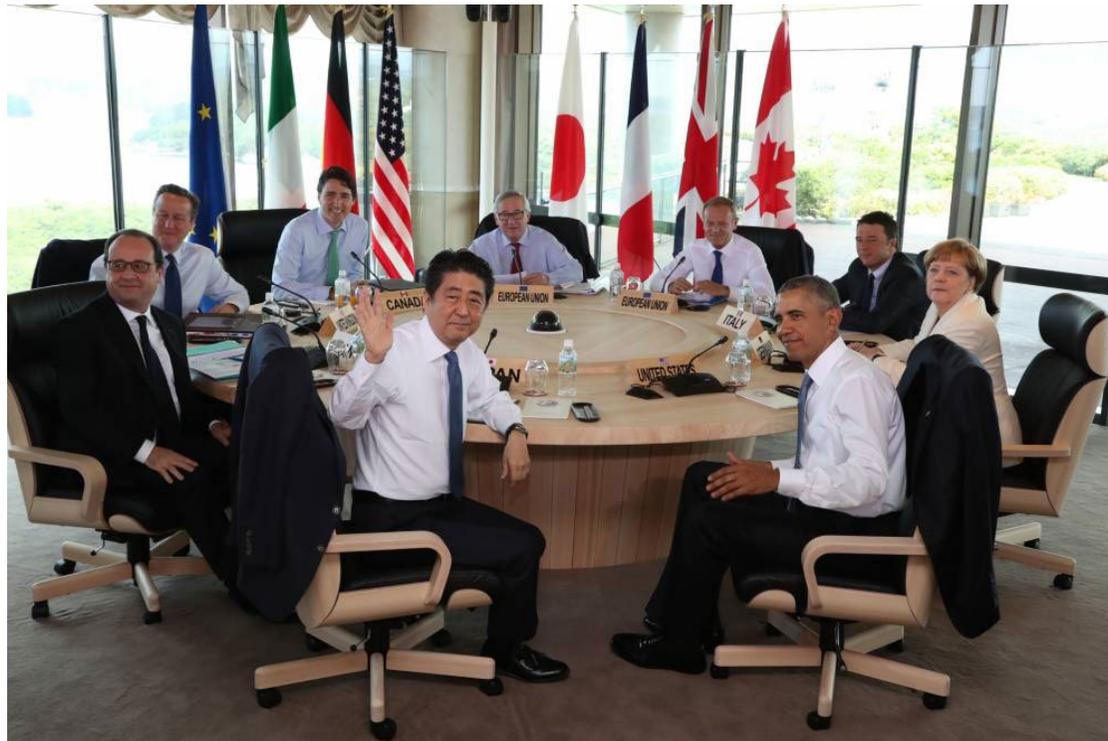
- 材価の大幅な下落
- 自社職員による生産から委託生産へ
- 無垢材需要の拡大に向けた取り組み
- 森林の情報化の取り組み
- 未来の消費者を育てる
森林環境教育 LEAF
- 新しい需要の創造へ向けて
(株)ひのき家
- 山林経営を継続する方策を暗中模索

- SGECが誕生し、国内でのFSCは思ったほどの広がりを見せず
- 2020東京オリンピック・パラリンピックでの認証材利用に期待も、認証材に限らず
- 当社木材も調達されたが、認証材としてではなく、森林経営計画の材として・・・
- 他地域の森林認証取得に助言を行うも、当地域で認証の活用方法をつくり出せず
- 木材は認証材がスタンダードにとの思惑は外れた・・・
- 紙は当たり前のように認証材に
- ほぼ唯一の当社認証材活用事例

FSC認証木材使用事例 伊勢志摩サミット

おわせヒノキ等三重県産のFSC認証材を使用。

メディアセンター以外の施設では、会議用メインテーブルなどの家具をはじめ、ペン皿やコースターなどの小物まで、今回新しく作られた木製品は全てFSC認証木材が使用された。

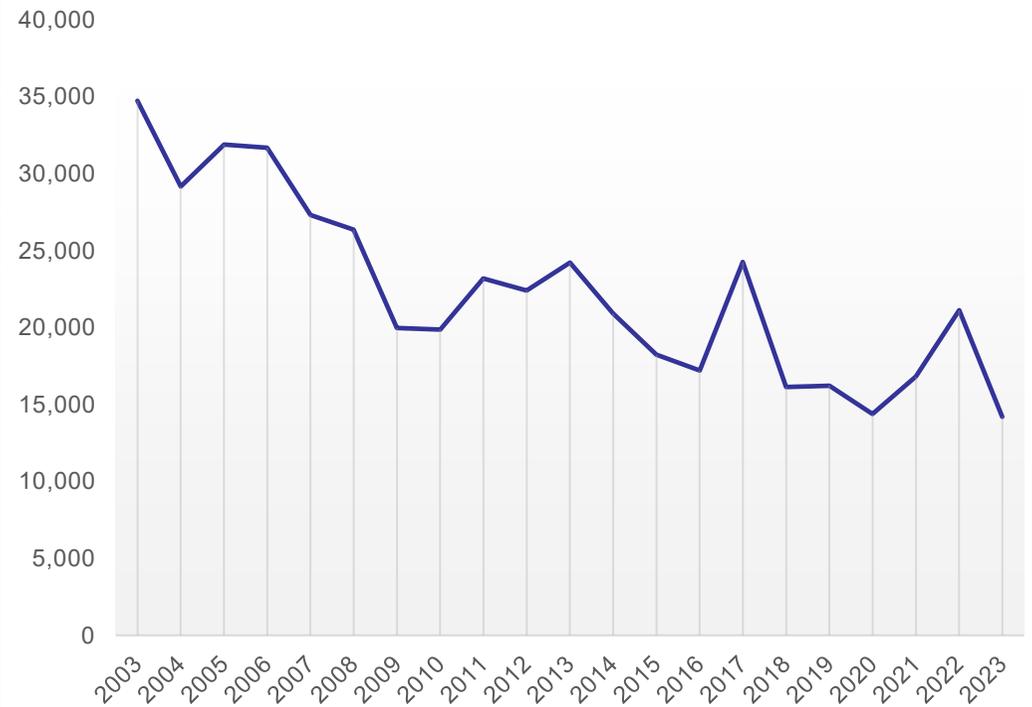




こちらのテーブルとベンチに吉田本家山林部認証材を使用

原木 販売 材積 金額 推移

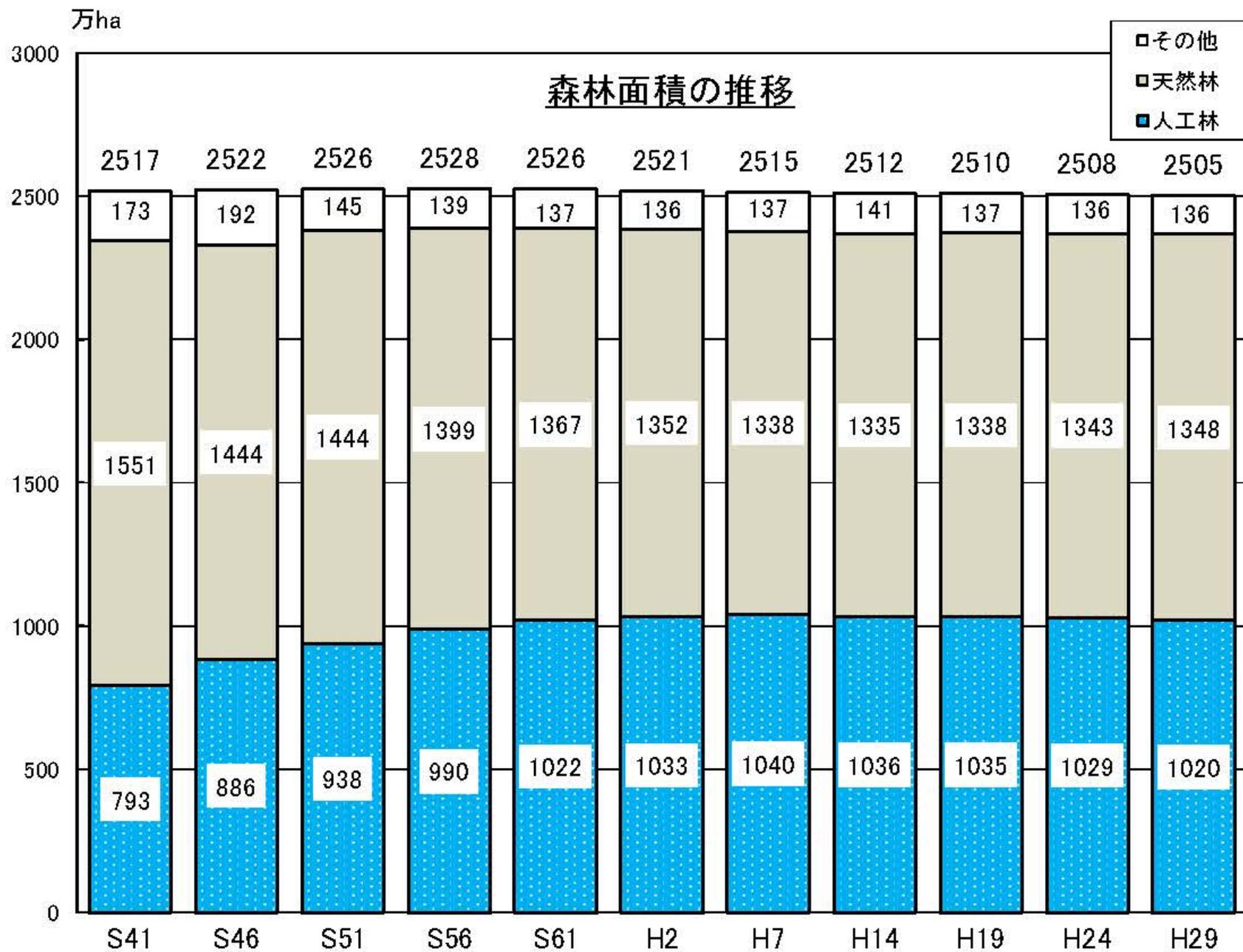
	年	販売材積	販売額	平均
15	2003	2,661	92,458,385	34,746円/m ³
16	2004	2,746	80,078,543	29,162円/m ³
17	2005	3,043	97,020,382	31,883円/m ³
18	2006	2,913	92,306,614	31,688円/m ³
19	2007	3,204	87,505,460	27,311円/m ³
20	2008	2,178	57,413,347	26,361円/m ³
21	2009	4,610	92,033,424	19,964円/m ³
22	2010	3,794	75,414,410	19,877円/m ³
23	2011	3,444	79,855,821	23,187円/m ³
24	2012	2,213	49,596,071	22,411円/m ³
25	2013	2,053	49,718,181	24,217円/m ³
26	2014	2,602	54,449,669	20,926円/m ³
27	2015	2,426	44,251,347	18,240円/m ³
28	2016	2,647	45,576,775	17,218円/m ³
29	2017	2,388	57,918,789	24,254円/m ³
30	2018	2,589	41,782,072	16,138円/m ³
1	2019	3,336	54,142,100	16,230円/m ³
2	2020	2,546	36,615,283	14,381円/m ³
3	2021	2,876	48,364,898	16,817円/m ³
4	2022	1,865	39,400,922	21,126円/m ³
5	2023	1,555	22,086,877	14,204円/m ³



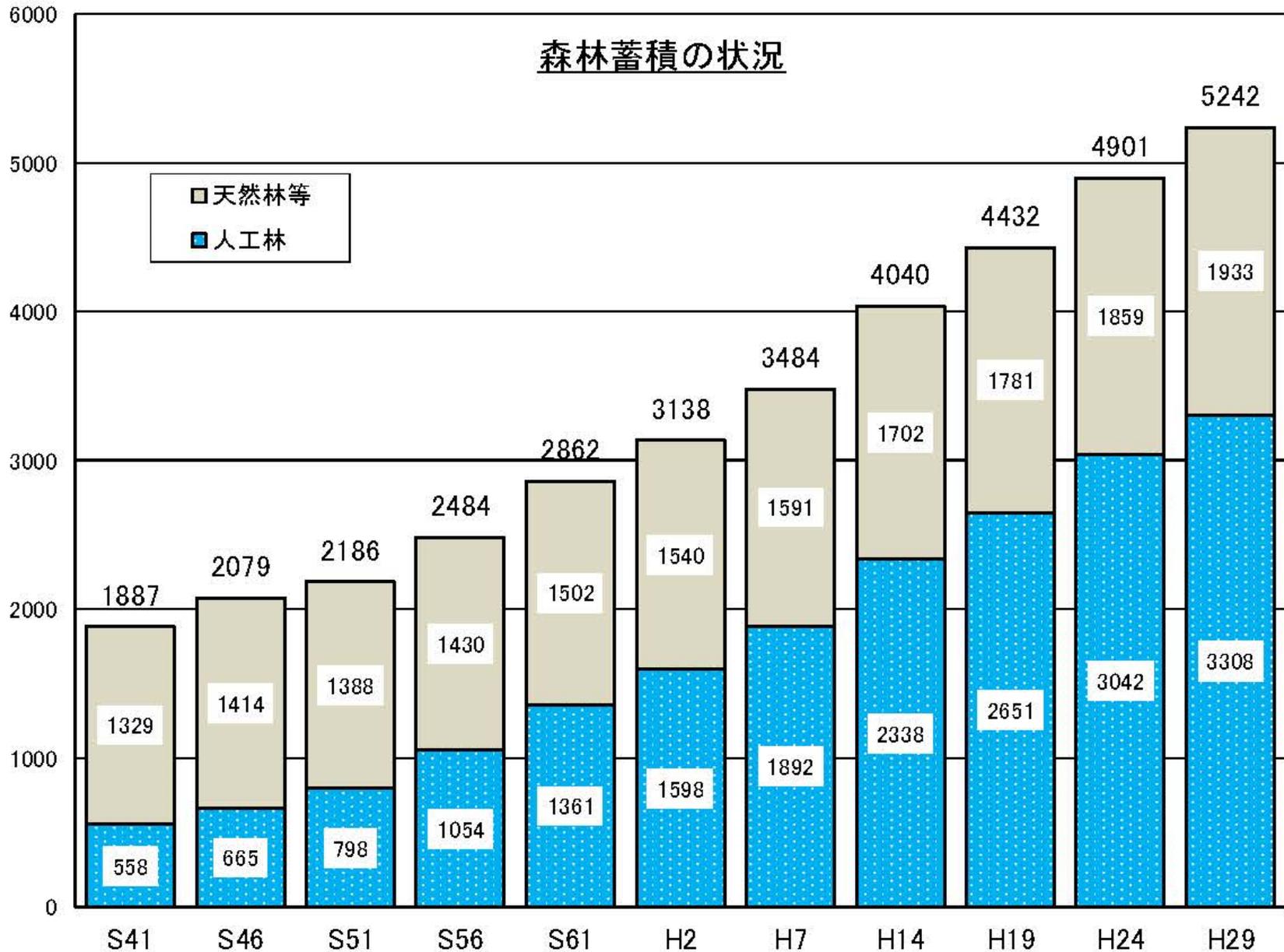
原木平均価格 (スギ、ヒノキ) 円/m³

- 森林認証を更新せず 2018年3月

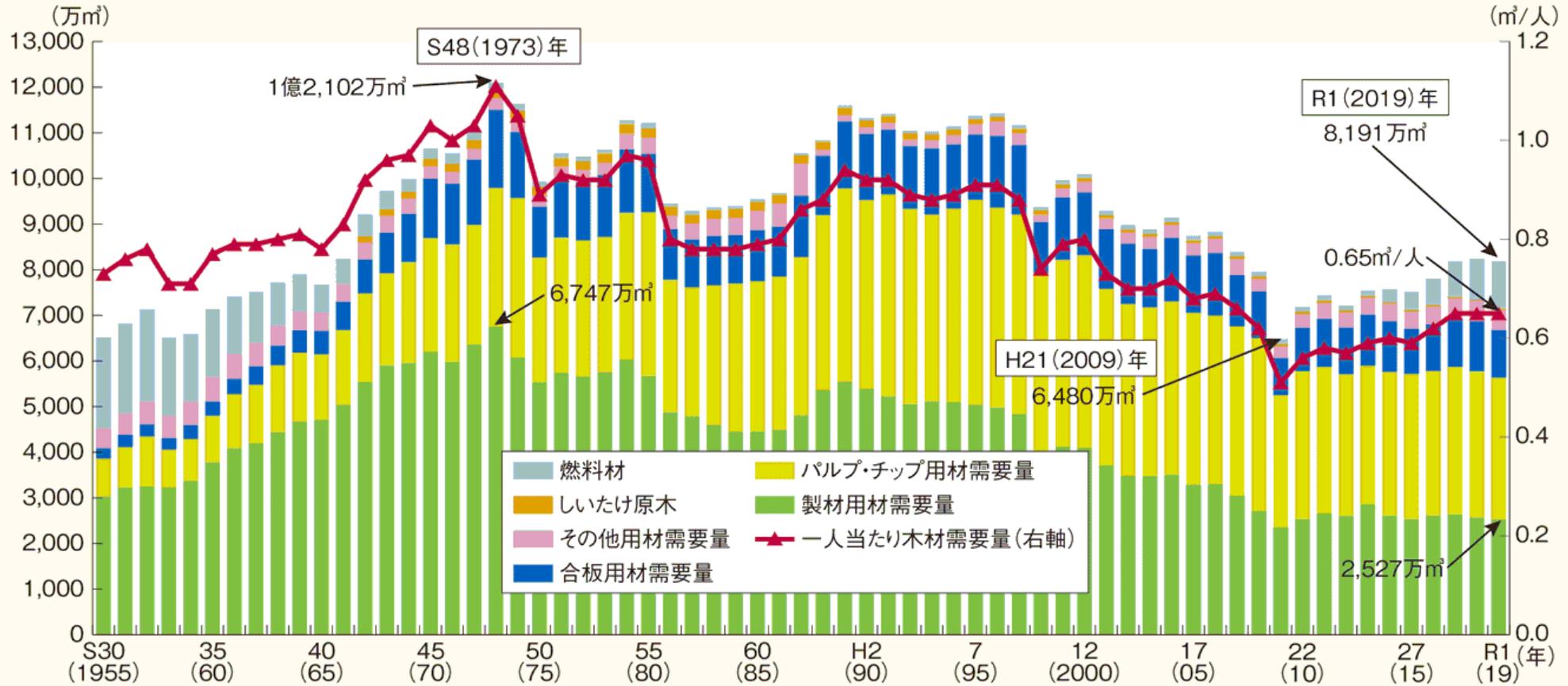
現在の林業経営をとりまく状況



百万m³



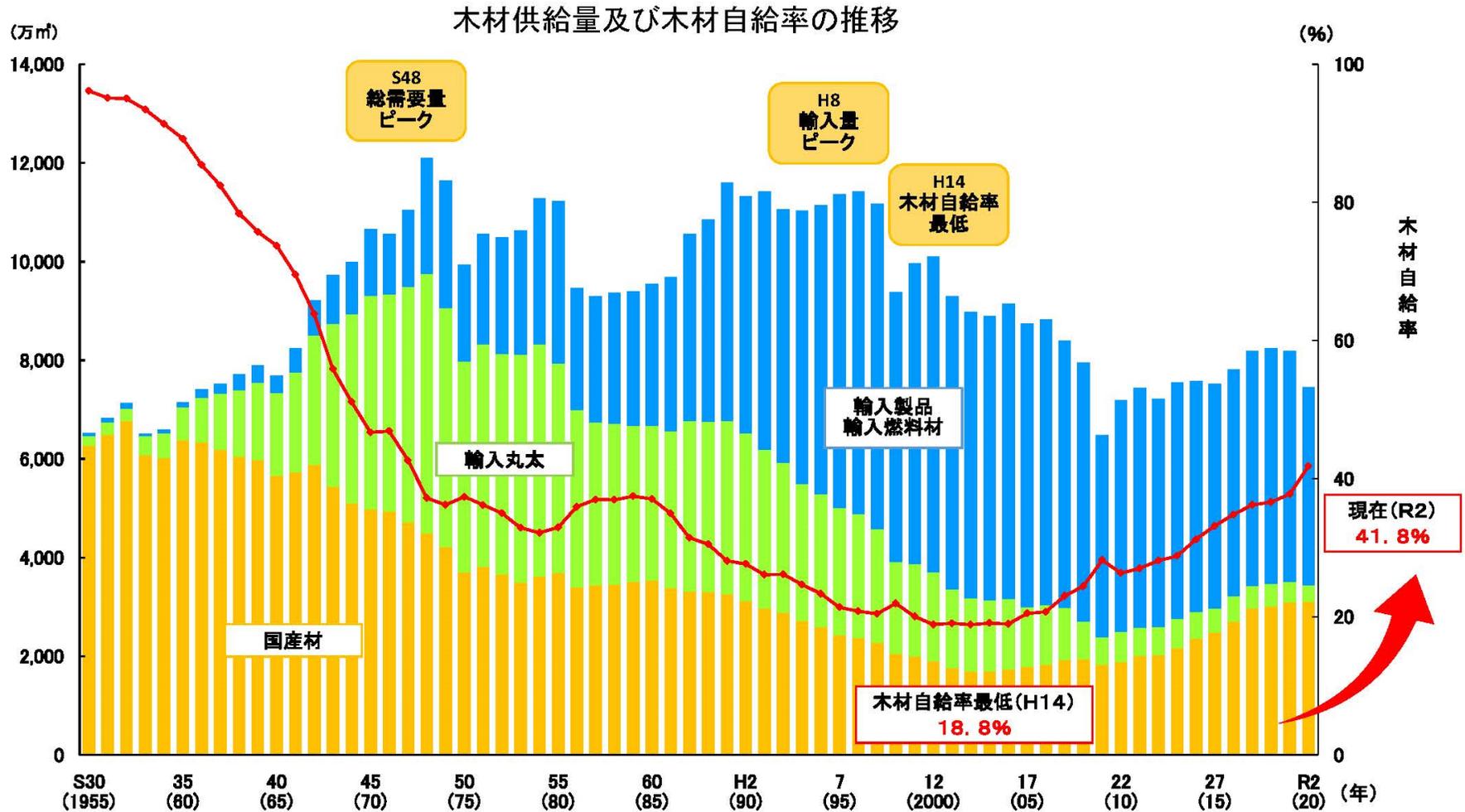
資料Ⅲ－5 木材需要量の推移



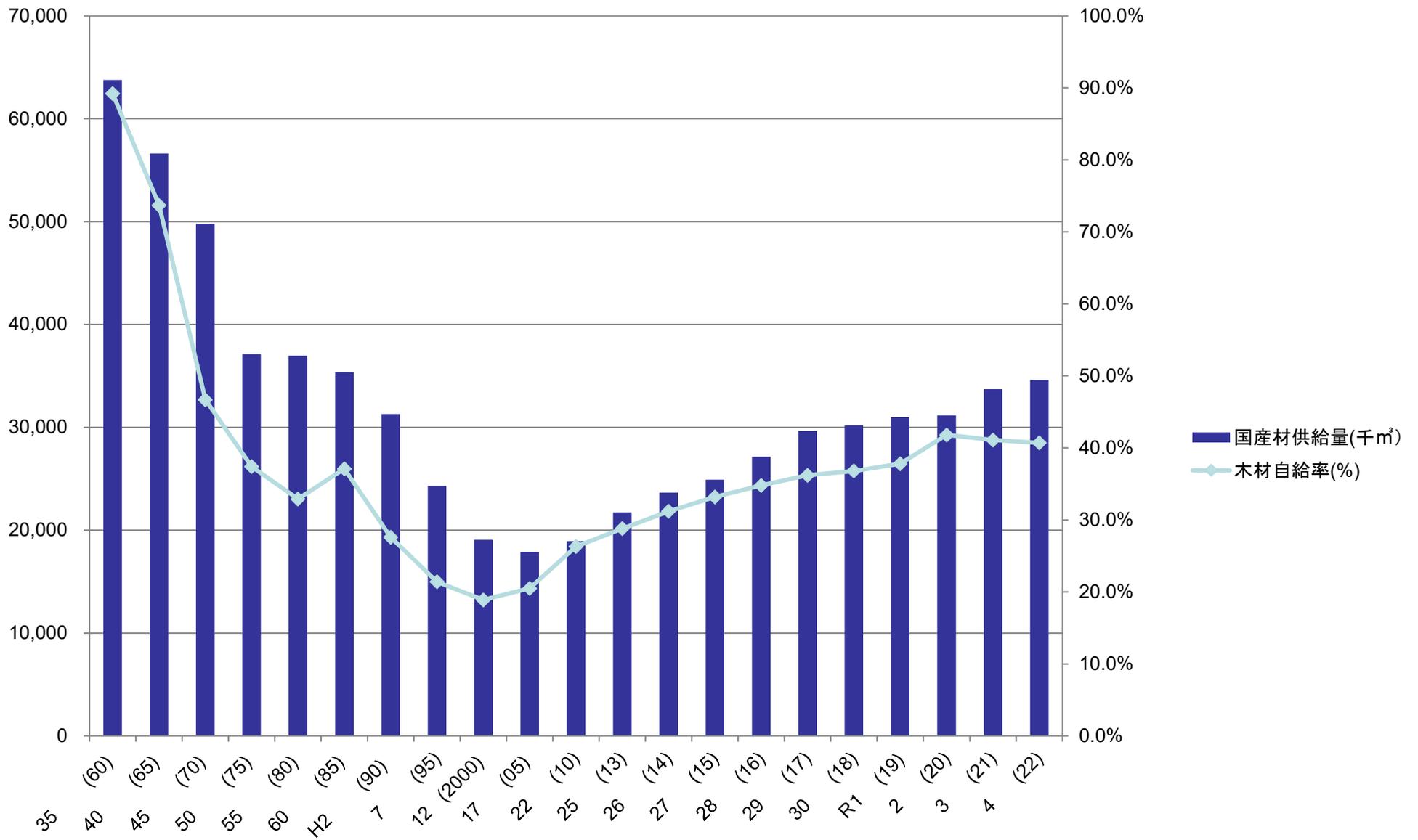
注：平成26(2014)年から燃料用チップを「燃料材」に加えている。

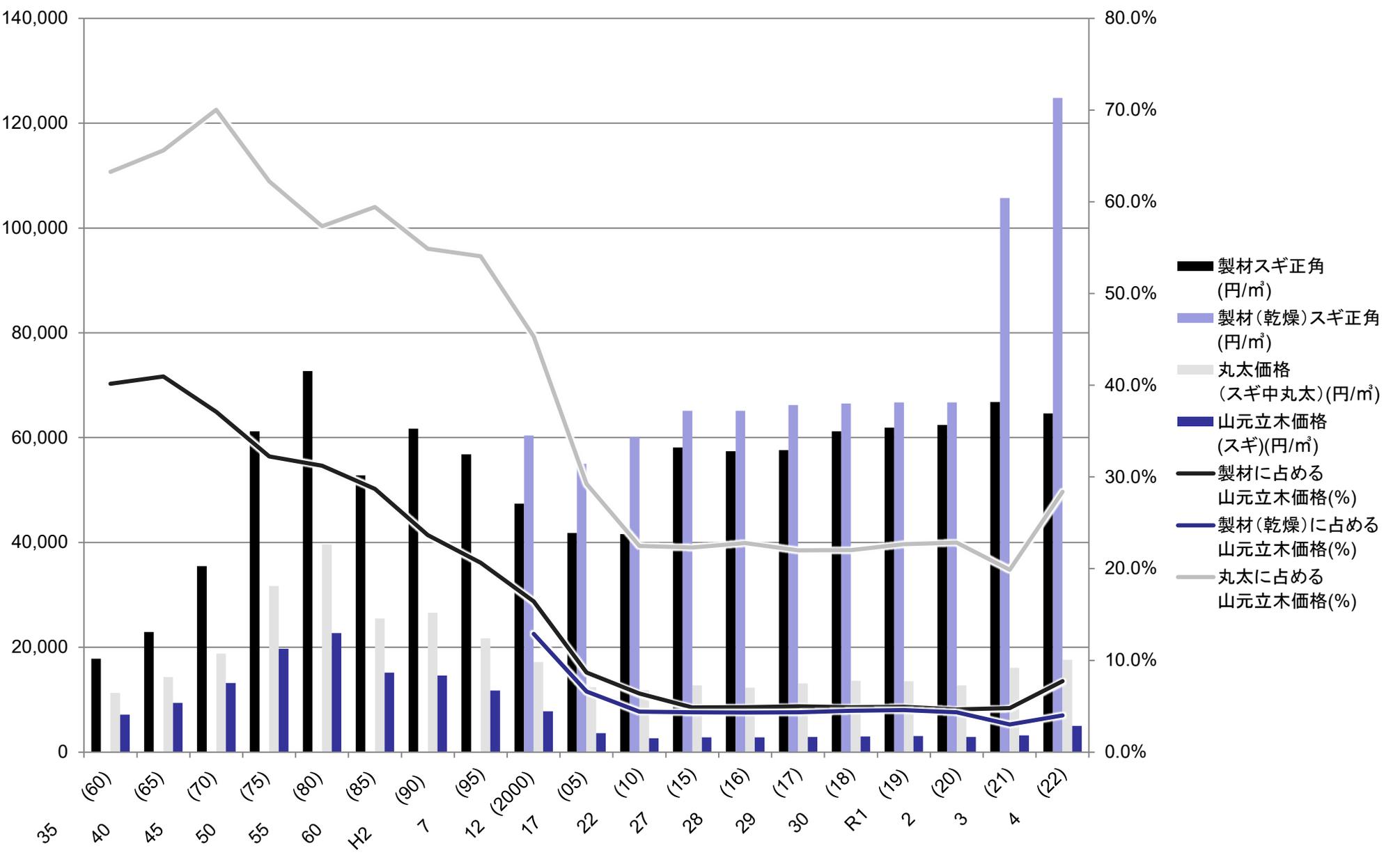
資料：林野庁「木材需給表」

国産材自給率と供給量



令和2年木材需給表





下落する一方の山元立木価格

山元立木価格、丸太価格、製材品価格

	山元立木価格				丸太価格		製材品価格		製材品(乾燥)価格	
	スギ	丸太価格にしめる立木価格の割合	製品価格にしめる立木価格の割合	スギ中丸太 径14~22cm 長3.65~4.0m	丸太価格 - 立木価格 (素材生産費)	スギ正角 厚10.5cm 幅10.5cm 長3.0m	製品価格 - 丸太価格 (製材費)	スギ正角(乾燥) 厚10.5cm 幅10.5cm 長3.0m	製品(乾燥)価格 - 丸太価格 (製材費)	
S30 (1955)年	4,478	53.3%	31.8%	8,400	3,922	14,100	5,700			
35 (60)	7,148	63.3%	40.2%	11,300	4,152	17,800	6,500			
40 (65)	9,380	65.6%	41.0%	14,300	4,920	22,900	8,600			
45 (70)	13,168	70.0%	37.1%	18,800	5,632	35,500	16,700			
50 (75)	19,726	62.2%	32.2%	31,700	11,974	61,200	29,500			
55 (80)	22,707	57.3%	31.2%	39,600	16,893	72,700	33,100			
60 (85)	15,156	59.4%	28.7%	25,500	10,344	52,800	27,300			
H2 (90)	14,595	54.9%	23.7%	26,600	12,005	61,700	35,100			
7 (95)	11,730	54.1%	20.7%	21,700	9,970	56,800	35,100			
12 (2000)	7,794	45.3%	16.4%	17,200	9,406	47,400	30,200	60,400	43,200	
17 (05)	3,628	29.3%	8.7%	12,400	8,772	41,800	29,400	55,000	42,600	
22 (10)	2,654	22.5%	6.4%	11,800	9,146	41,600	29,800	60,100	48,300	
25 (13)	2,465	21.4%	5.1%	11,500	9,035	48,600	37,100	62,700	51,200	
26 (14)	2,968	22.0%	5.1%	13,500	10,532	58,200	44,700	69,400	55,900	
27 (15)	2,833	22.3%	4.9%	12,700	9,867	58,100	45,400	65,100	52,400	
28 (16)	2,804	22.8%	4.9%	12,300	9,496	57,400	45,100	65,100	52,800	
29 (17)	2,881	22.0%	5.0%	13,100	10,219	57,600	44,500	66,200	53,100	
30 (18)	2,995	22.0%	4.9%	13,600	10,605	61,200	47,600	66,500	52,900	
R1 (19)	3,061	22.7%	4.9%	13,500	10,439	61,900	48,400	66,700	53,200	
R2 (20)	2,900	22.8%	4.6%	12,700	9,800	62,400	49,700	66,700	54,000	
R3 (21)	3,200	19.9%	4.8%	16,100	12,900	66,800	50,700	105,700	89,600	
R4 (22)	4,994	28.4%	7.7%	17,600	12,606	64,600	47,000	124,800	107,200	

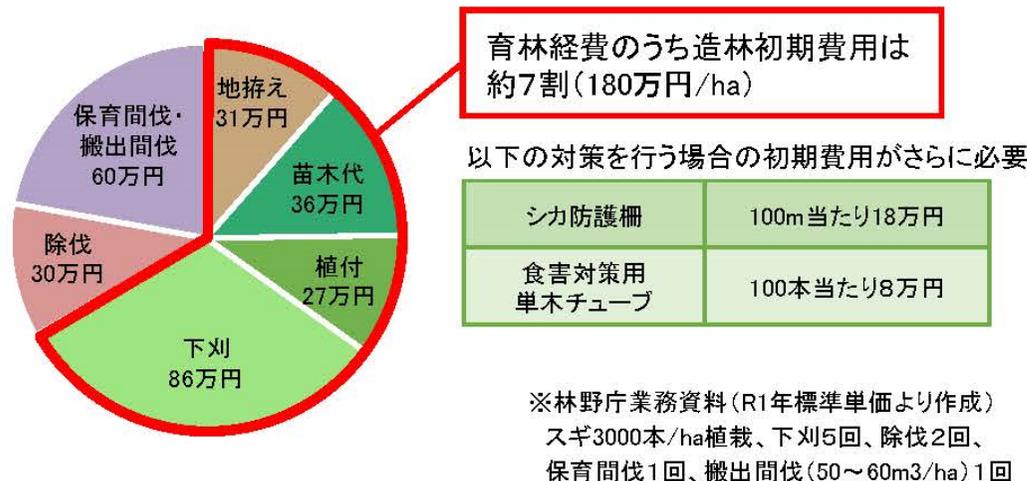
森林・林業白書 木材需給統計より作成

R5 山元立木 4,361 丸太 16,700 製材品(乾燥)101,800 と下落

• 山元立木価格
 3,061円 ×
 蓄積300m³/ha
 =918,300円

• 再造林費用の
 半分

■ 再造林費用の現状

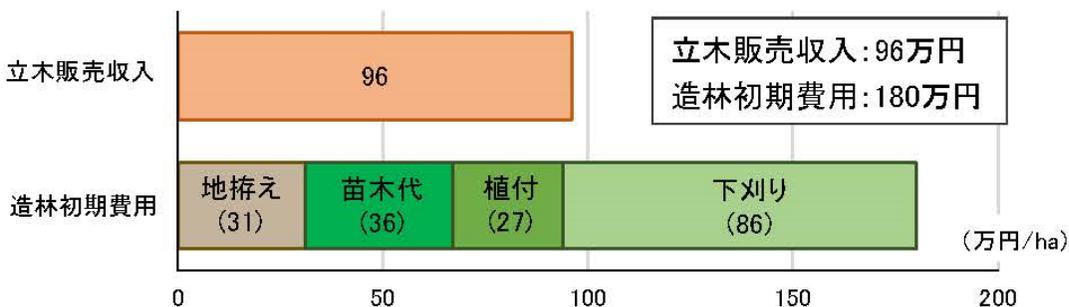


■ 立木販売収入と再造林費用

再造林費用は主伐による収入を大きく上回る。

(造林初期費用は立木販売収入のほぼ倍(▲84万円))

立木販売収入と造林初期費用の比較(イメージ)



※林野庁業務資料

※立木販売収入はスギ山元立木価格にスギ10齢級の平均材積315m³/haを乗じて算出。

22 林業経営体（林家）の林業経営

項 目	単位	H16年度 (2004) 平均	17 (05) 平均	18 (06) 平均	19 (07) 平均	20 (08) 平均	25 (13) 平均	保有山林規模別 (ha)			
								20-50	50-100	100-500	500-
								林業粗収益	千円	2,497	2,396
立木販売収入	//	300	266	409	275	206	233	228	199	342	...
素材生産収入	//	1,786	1,667	1,635	1,246	1,041	1,744	1,806	1,110	2,417	9,039
その他	//	412	464	559	383	537	507	739	433	439	307
林業経営費	千円	2,081	2,109	2,125	1,613	1,681	2,371	2,013	1,652	3,309	13,851
雇用労賃	//	379	339	345	270	300	300	256	149	473	2,636
原木費	//	230	248	308	125	130	112	157	98	103	...
機械修繕費	//	201	208	209	117	169	279	414	184	272	1,073
賃借料・料金	//	202	195	194	174	150	192	126	131	382	415
請負わせ料金	//	613	707	626	539	557	982	529	710	1,496	7,322
その他	//	455	409	443	389	375	506	531	380	583	2,405
林業所得	千円	417	287	478	291	103	113	760	90	▲ 111	▲ 4,505
投下労働量	時間	698	609	632	571	536	645	820	480	702	1,939
家族	//	496	426	447	422	380	447	645	373	424	195
雇用労働	//	202	183	185	149	156	198	175	107	278	1,744

100－500haの所有者で11万1千円の赤字
500ha以上の所有者では450万5千円の赤字

- 資源は4倍 消費は半分
- 多額の間伐補助金が投入されるも更に材価を下げる
- 木が使われないことにより材価が下がり森林整備や更新に弊害が起こっている
- 山元立木価格の下落が著しい
- 合板 集成材 バイオマス発電など安い木材の需要は増大
- こうした中、「木育」「木づかい」など木を使うことの重要性が増す
- このような状況で造林をしない(できない)所有者。
- 獣害も甚大に
- 今の林業政策では「所有者」が軽視されている。
- 次の森林を育てることを「決める」のは所有者

新型コロナ禍の2020年

- 2020年春 新型コロナウイルスの影響で木材価格の暴落の懸念
- 国有林 生産調整（はじめて！）
- 森林組合系統も生産から保育への作業転換補助
- 材価の暴落は起こらず
- 一部地域では出材不足から夏頃より値上がり

そんな中の令和2年11月

政策提言

新時代の森林管理・ 林業経営に向けた提言

2020年（令和2年）11月4日
日本林業経営者協会 青年部

事務局：一般社団法人 日本林業経営者協会

- ・間伐材の増産が買い叩きを誘発、材価低迷へ
 - ・無垢材需要の減少が林業苦境の要因
 - ・大手の住宅には国産材製材品が使われにくい
 - ・国産材製材品の需要は工務店・ビルダーが牽引
 - ・違法伐採や再造林放棄地からの出材に係る問題
 - ・国有林からの出材に係る問題
 - ・森林環境教育への考察
- など

林野庁 長官 林野庁幹部

に手交し意見交換

「とにかく山元立木価格をあげないといかない」
の思いは同じ

でもどうやるかは妙案が無い・・・

原木が不足している地域では値上がりしているのに・・・

図1 素材価格の推移（全国）

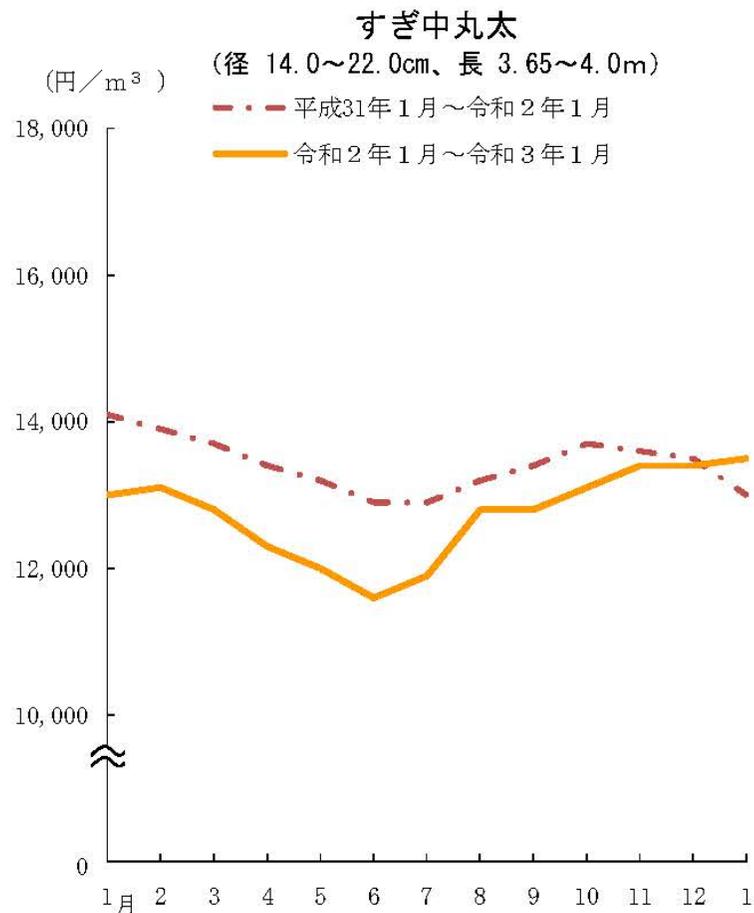
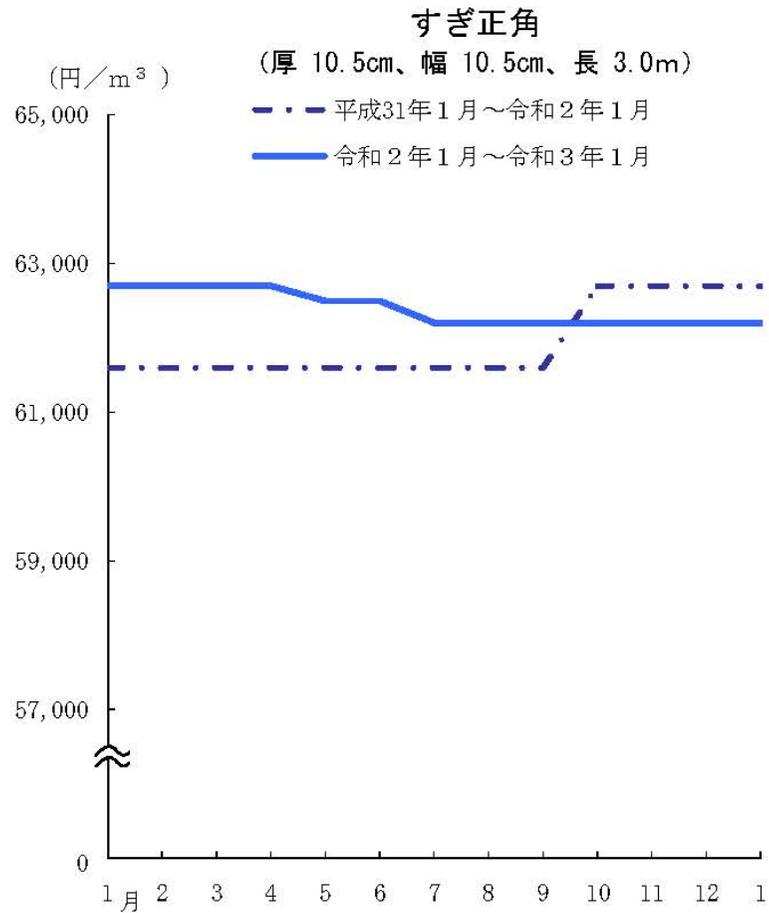


図2 木材製品価格の推移（全国）



注：令和2年1月から一部の調査品目の変更を行った（以下7ページまで同じ。）。

2021年ウッドショック！？

- 2021年に入り、中国、アメリカの経済の回復
- コンテナ需給の乱れに伴う、運賃の高騰
- 円安
- 春頃に輸入材の調達が困難に
- 慌てた需要者が買い集めを行い、輸入材価急騰
- 不足分を補う為国産材も調達
- 出材の少ない時期でもあり、国産材市場価格も上昇

図1 素材価格の推移（全国）

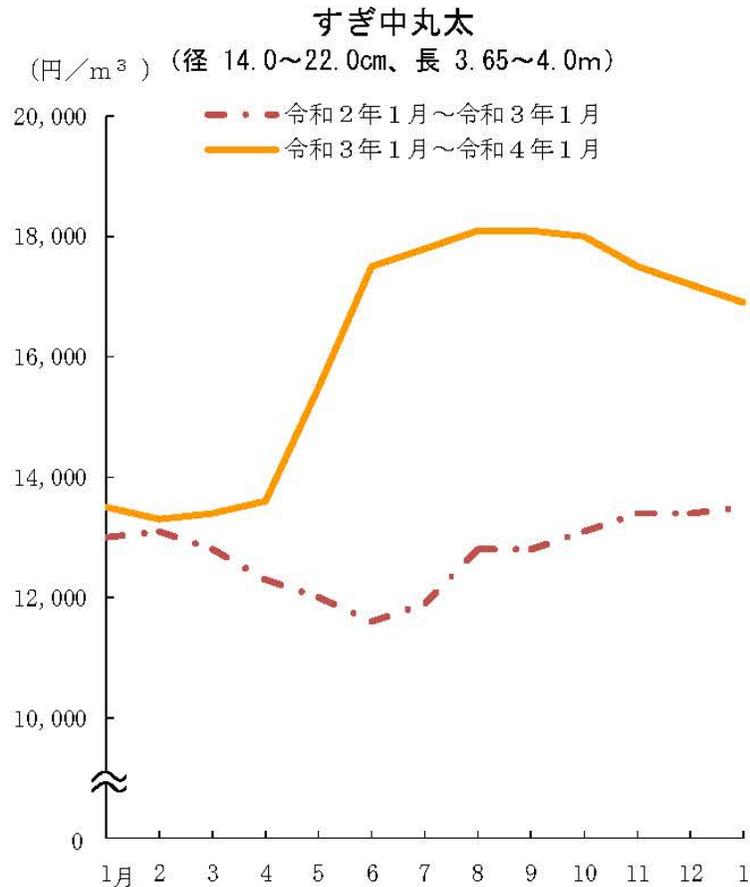
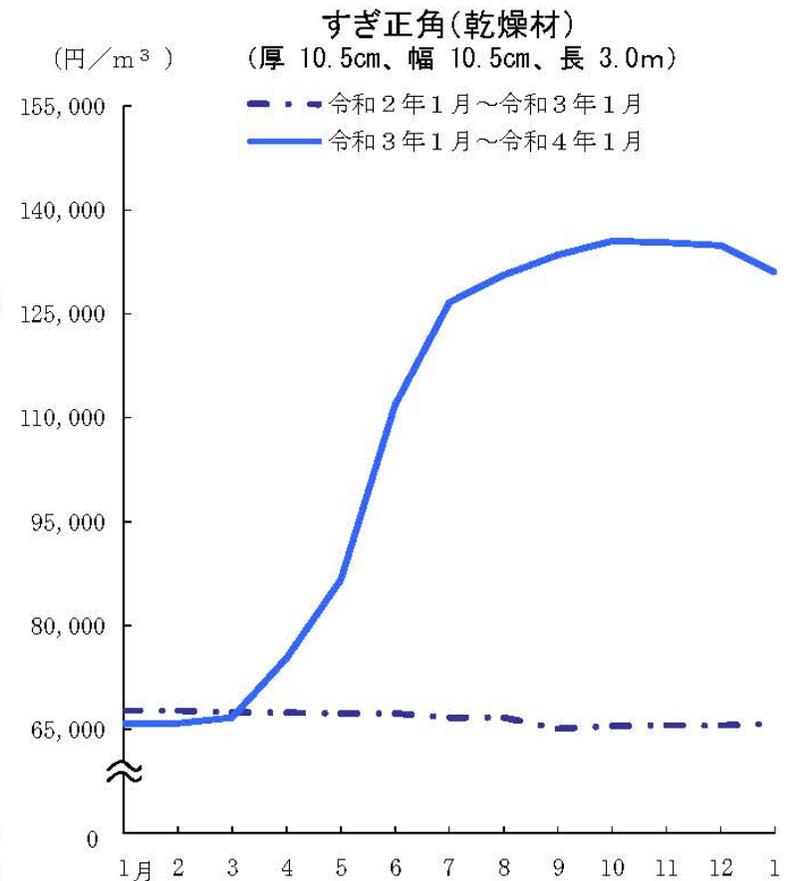


図2 木材製品価格の推移（全国）



注：令和4年1月から一部の調査品目の変更を行った（以下7ページまで同じ。）。

図1 素材価格の推移（全国）

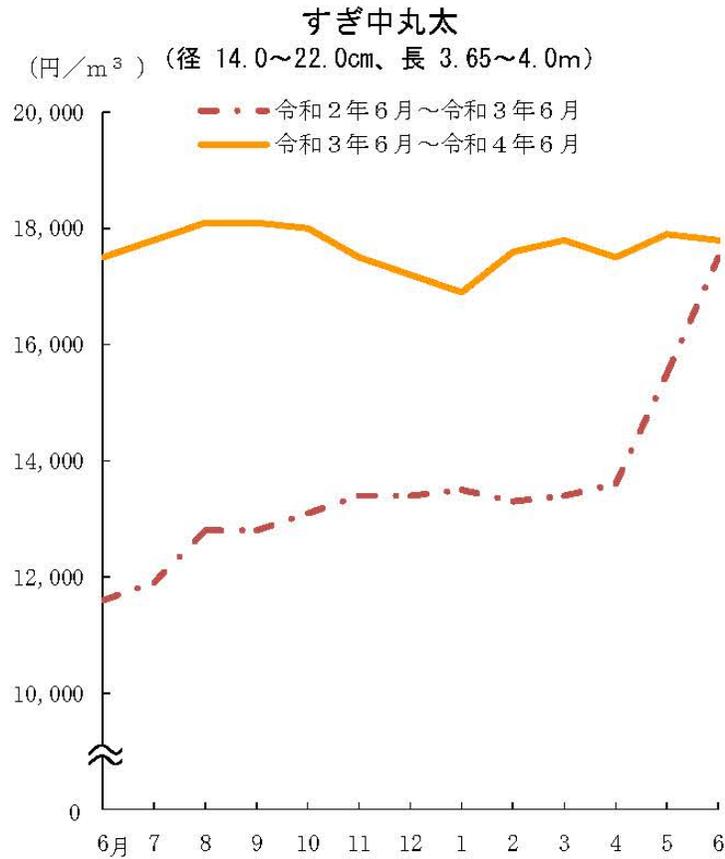
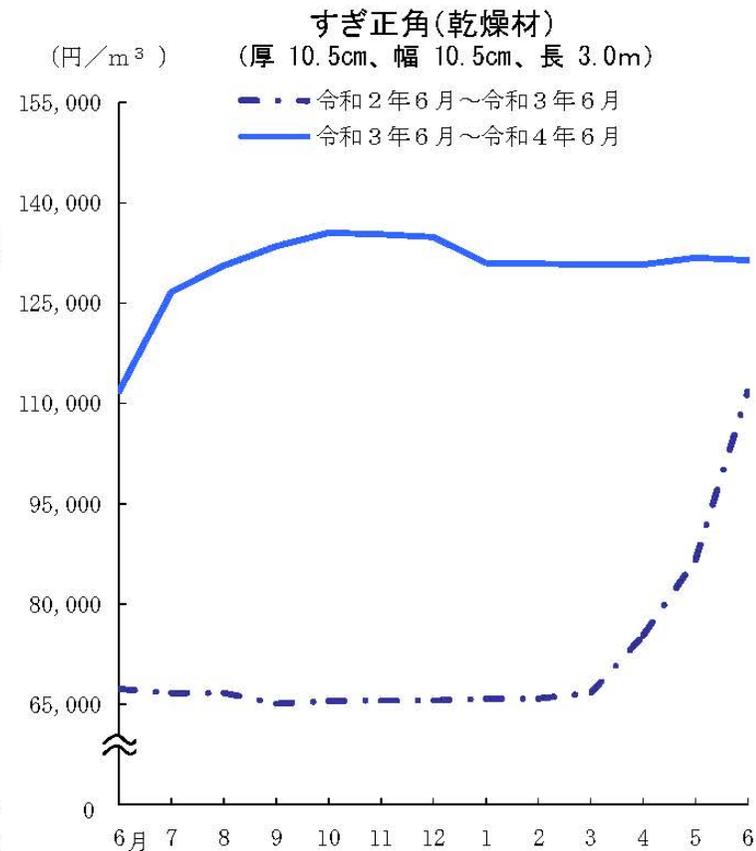


図2 木材製品価格の推移（全国）



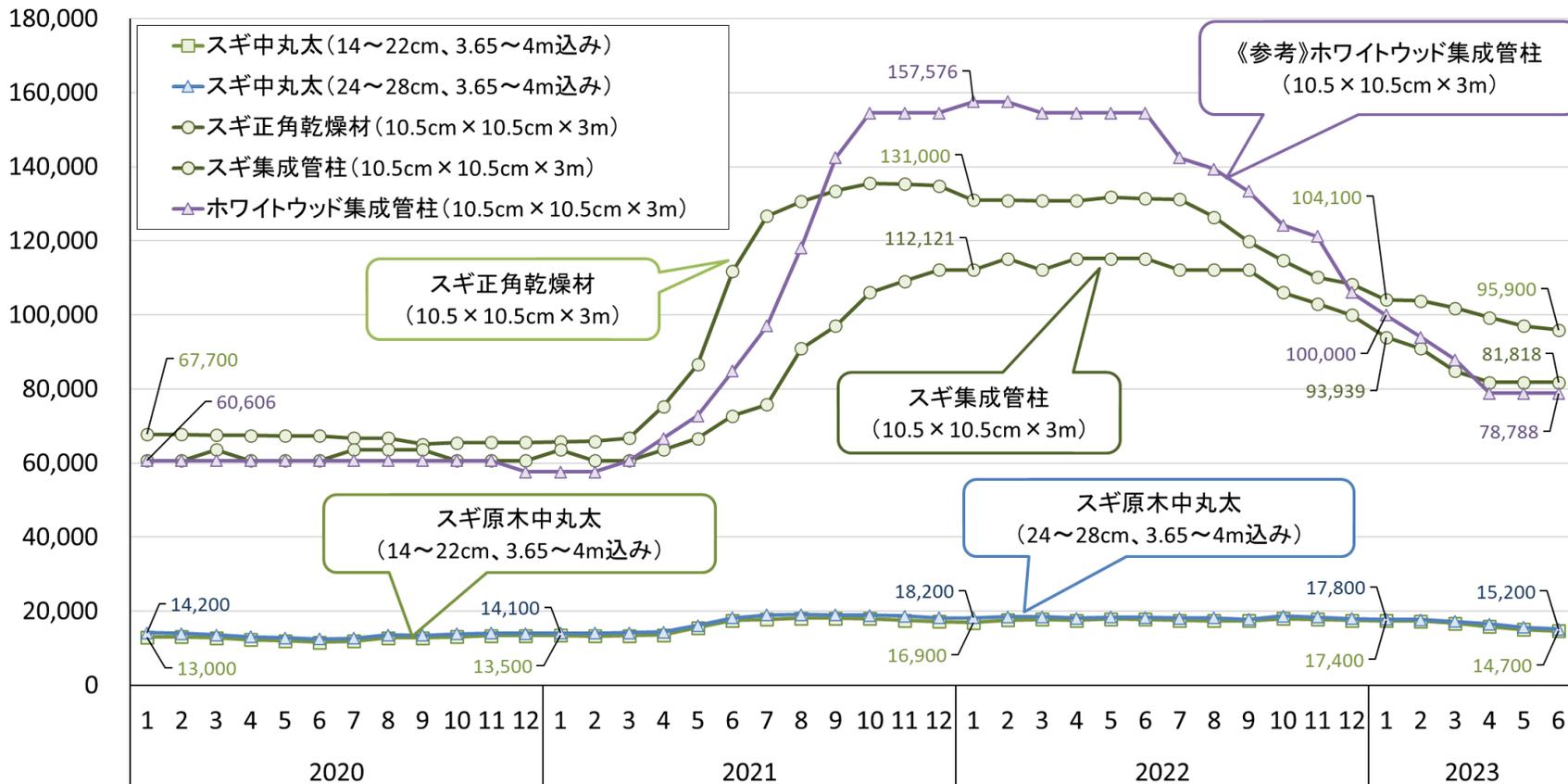
注：令和4年1月から一部の調査品目の変更を行った（以下7ページまで同じ。）。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。
 【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/mokuryu/kakaku/index.html#m> 】

農林水産省「木材価格統計」から原木・製材品価格推移

スギ原木とスギ製材品の価格推移

単位: 円/立米



農林水産省「木材価格統計」より Office YAMADA Inc.

農林水産省「木材価格統計」からスギ価格指数(2020 = 100)

スギ原木とスギ製材品の価格指数推移

スギ丸太・製品種類		2020	2020				2021				2022				2023	
		平均	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月
原木	スギ中丸太 (14~22cm、3.65~4m込み)	100 (12,683)	101	91	101	106	106	138	143	136	140	140	137	138	132	115
	スギ中丸太 (24~28cm、3.65~4m込み)	100 (13,500)	101	93	100	104	105	135	141	135	137	136	132	133	127	113
製品	スギ正角乾燥材 (10.5cm×10.5cm×3m)	100 (66,675)	101	101	98	98	100	168	200	202	196	197	180	162	153	145
	スギ集成管柱 (10.5cm×10.5cm×3m)	100 (61,616)	103	98	103	98	98	118	157	182	182	187	182	162	138	132
	ホワイトウッド集成管柱 (10.5cm×10.5cm×3m)	100 (60,354)	100	100	100	95	100	141	236	256	256	256	221	176	146	132

- ・2020年の平均値を100とした、原木および製材品の価格指数
- ・スギ原木の指数最大値は、2021年9月の「143」
- ・スギ製材品の指数最大値は、2021年12月の「202」
- ・原木の上昇率と、製材品の上昇率に乖離があった。

ウッドショックで

- 「足りなければ価格は上がる」が実証された。
- =供給が多すぎれば安くなる！
- 安定供給といわれるが、生産量は大きく変えられない。
人や機械の数は急に変わらない。
- 急激な需要の変化に即応する体制にはなっていない。
- むしろ需要側の問題
(新型コロナ禍でのトイレトペーパー騒ぎ)

- 丸太価格5,000円の収支改善→
生産費は変わらないとすると
山元価格8,000円(丸太価格17,200円/m³)
× 300m³/ha=2,400,000円
(平成12年、2000年頃の水準) 再造林も可能に
造林補助は必要
- 平成はじめの水準
山元14,000円(丸太26,600円/m³)なら
× 300m³/ha=4,200,000円
補助金からの脱却もできるのでは？
- 生産や保育のコストダウンを否定するものではないが
一定レベルでの原木、山元立木価格はあるのでは

- 今まで調達しやすいとされてきた輸入材が買い負けて買えない状態にあることがわかった。
- 需要を無視した、増産政策が国産材価格を不当に押し下げている。
- 自国の資源も急には増産できない。
- 日頃から資源を適切な価格で消費し、再生産するサイクルが回るようにすることで、育林と生産の持続が実現される。
- 平成はじめの水準であればそれは可能。
- そのような値段も2021年 一瞬一部地域で出現
- 他の資源（鉄、原油、ガソリン、食料・・・）、あらゆるものが上昇
- 人件費も上昇
- 木材を適切な価格で使う「消費者」の存在が重要

現在の林業の課題

- 安すぎる 原木 山元立木価格
- 安い材に偏った木材需要
- 人材の確保
- 路網など生産基盤の未整備
- 深刻化する獣害
- 森林情報整備の遅れ 情報技術の使い方
- 複雑化する制度
- 事務手続きの煩雑化
- 山林所有者の諦め→林地の手放し

対処療法的林野施策が森林経営を 崩壊させている

- 2010年頃の課題

森林施業が進まない 政権交代

森林・林業再生プラン

森林経営計画制度の開始

当初は「簡素で実行力ある制度」を目指した

- 間伐の遅れの指摘→間伐量を軸にした経営計画
- 切り捨て間伐は「もったいない」→利用間伐
- 属人計画→属地計画へ
我々は属人で一体で経営している

- 林野庁 森林・林業基本政策検討委員を務める
- 大激論の末、一定面積以上の属人計画が認められる
- 上記に入らなかった方々が問題提起「自伐」
- 自伐林業→自伐「型」林業 不毛な業界内対立の根本原因になってしまった気がする
- 当初は主伐 再造林の議論もなく
- 集約化、間伐、路網（林業専用道、森林作業道）
- 現在に至って間伐面積規定により計画樹立が困難に

- 会計検査での指摘
- 経営計画値と実行値が一致しない 当たり前
- 事後に計画を修正
- 事前に計画する意味は？
- 当初の議論では間伐等施業箇所に入れ替えはOK とのことだったが・・・
- 元々地番管理の計画 林班林小班管理にすることの弊害

- 2011年 東日本大震災 福島第一原発事故
- 電力不足 計画停電
- 再生可能エネルギー利用 FIT
- 木質バイオマス発電
- 「既存の木材流通に影響を与える」の製紙業界等からの意見
- 「未利用材」 間伐材、経営計画から生産された主伐材、保安林の材など
- 紙やパレット材などと競合し調達困難に、経営計画の策定面積減少も一因
- 庭木や公園の樹木、街路樹等の「本来の未利用材」は「一般材」

- 不正をする事業者が発生
 - 写真に位置情報を求める
 - 事業者側、行政側とも作業が増加
- 外国資本？が山林を買っている
 - 届け出制度
- 盗伐の社会問題化
 - 伐採届、保安林作業申請時の書類増加
- インチキや不正を行う人はこれらを見做して行う
- 真面目にやる人に手続き等の過度な負担
- その対応で新たな不正が発生・・・

森林環境税 森林環境譲与税と 森林経営管理法

- 林業経営をあきらめた山林を市町村でまとめ施業する方策
- 林業の本来の姿
伐って、使って、植えて、育てて、
伐って、使って、植えて、育てて、
伐って、使って、植えて、育てて…
ができる体制整備を
それが出来るのは山林「所有者」

花粉症対策！？

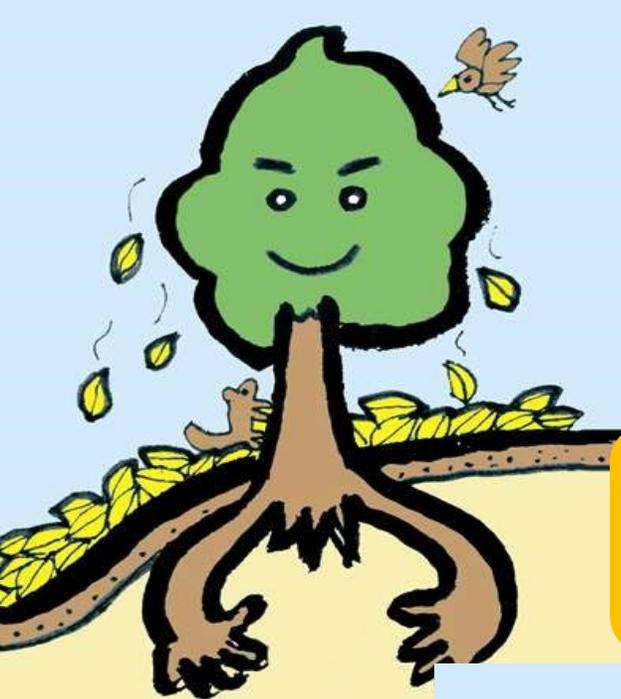
- 岸田首相 花粉症対策
- 急な伐採増加は価格の大暴落を招く！！
- 将来の資源確保との整合性

もっとシンプルに

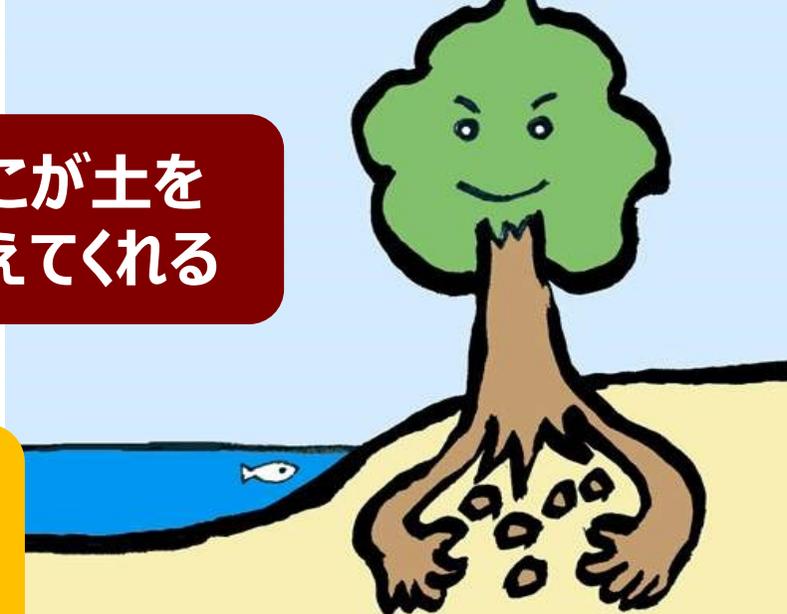
1. 森林の働き

森の働きについて考えてみましょう





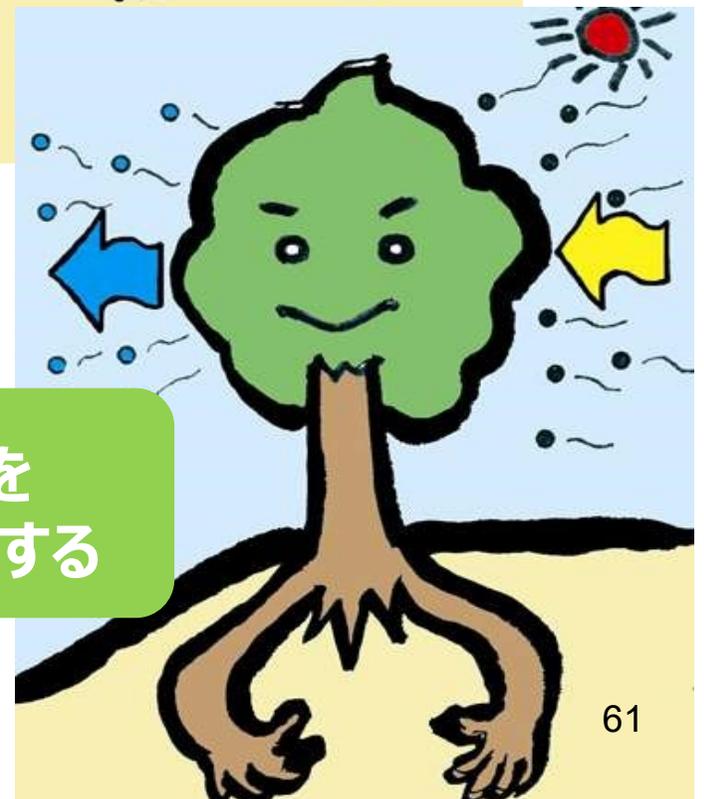
根っこが土を
押さえてくれる



動物の
すみかになる



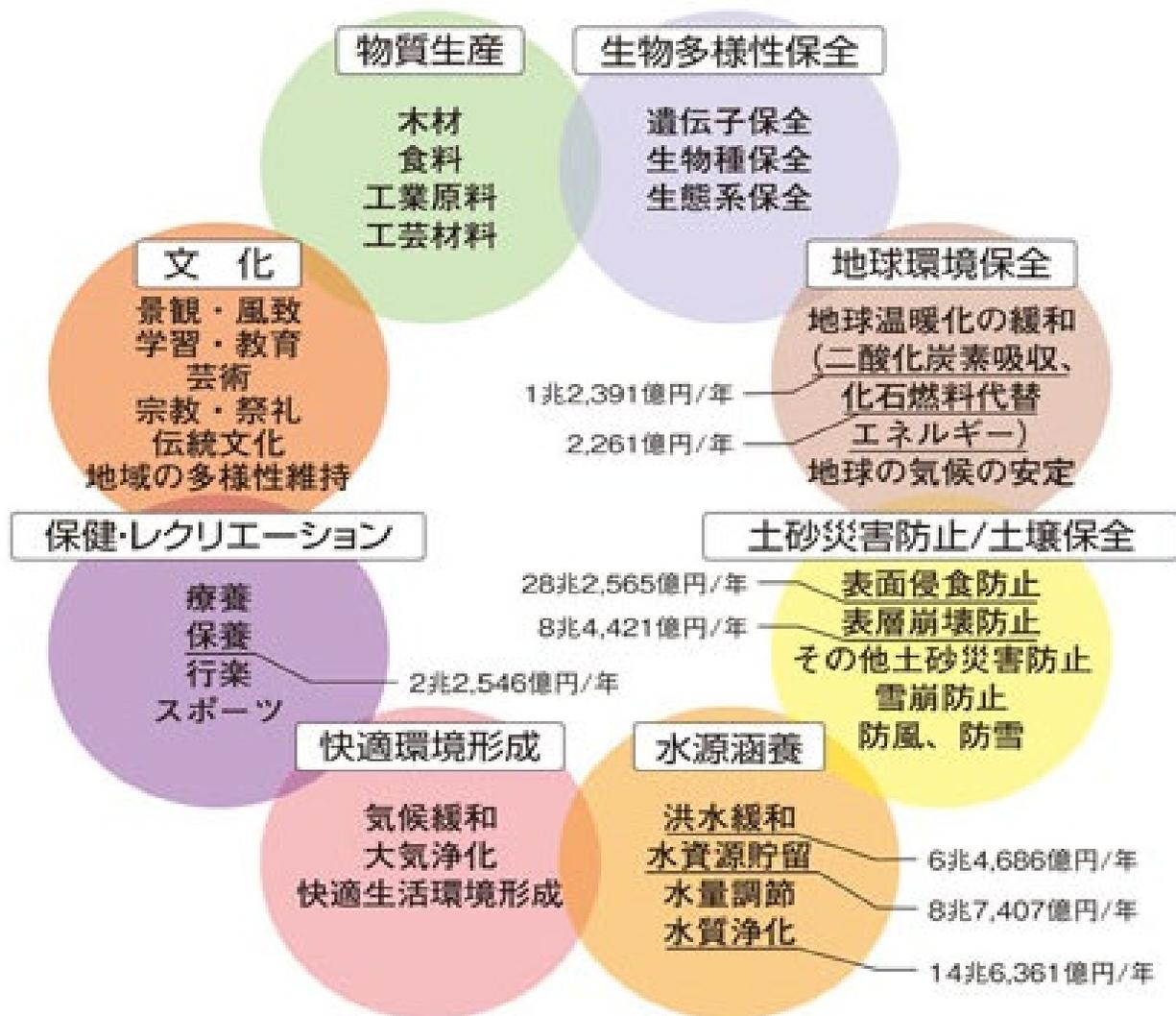
きれいな水を
作る



空気を
きれいにする

木材や燃料となって、私たちに暮らしの糧を与えてくれる



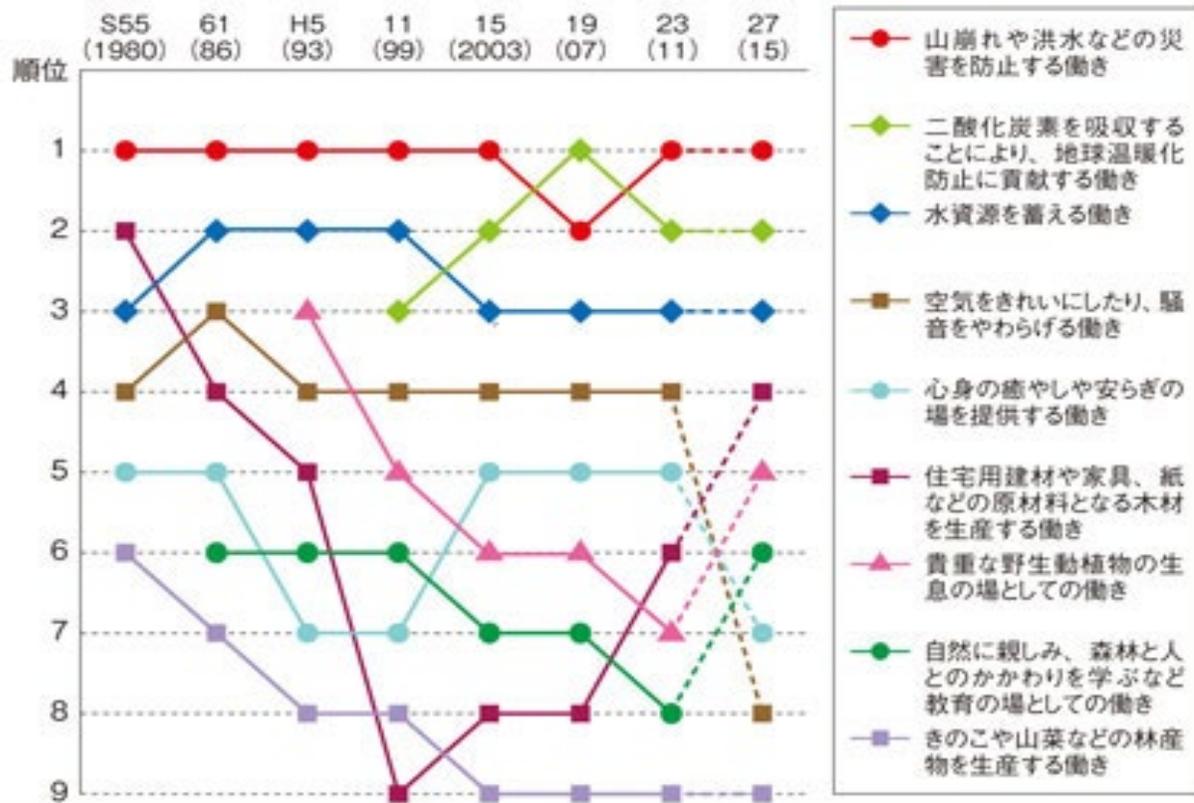


農業
農業生産以外を
「公益的機能」

林業
物質生産を含め
「多面的機能」

注1：貨幣評価額は、機能によって評価方法が異なっている。また、評価されている機能は多面的機能全体のうち一部の機能にすぎない。
 2：いずれの評価方法も、「森林がないと仮定した場合と現存する森林を比較する」など一定の仮定の範囲においての数字であり、少なくともこの程度には見積もられるといった試算の範囲を出ない数字であるなど、その適用に当たっては細心の注意が必要である。
 3：物質生産機能については、物質を森林生態系から取り出す必要があり、一時的にせよ環境保全機能等を損なうおそれがあることから、答申では評価されていない。
 資料：日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的機能の評価について」及び同関連付属資料(平成13(2001)年11月)

資料Ⅱ-5 国民が森林に期待する役割の変遷



注1：回答は、選択肢の中から3つを選ぶ複数回答である。

2：選択肢は、特になし、わからない、その他を除き記載している。

資料：総理府「森林・林業に関する世論調査」（昭和55（1980）年）、「みどりと木に関する世論調査」（昭和61（1986）年）、「森林とみどりに関する世論調査」（平成5（1993）年）、「森林と生活に関する世論調査」（平成11（1999）年）、「内閣府「森林と生活に関する世論調査」（平成15（2003）年、平成19（2007）年、平成23（2011）年）、「農林水産省「森林資源の循環利用に関する意識・意向調査」（平成27（2015）年10月）を基に林野庁で作成。

水土保持、水源涵養が上位

二酸化炭素吸収

1999年に登場3位
（1998年 京都議定書）

2007年に1位

2011年~2位

教育の場

1986年に登場6位

2011年には8位に低下

2015年に6位に回復

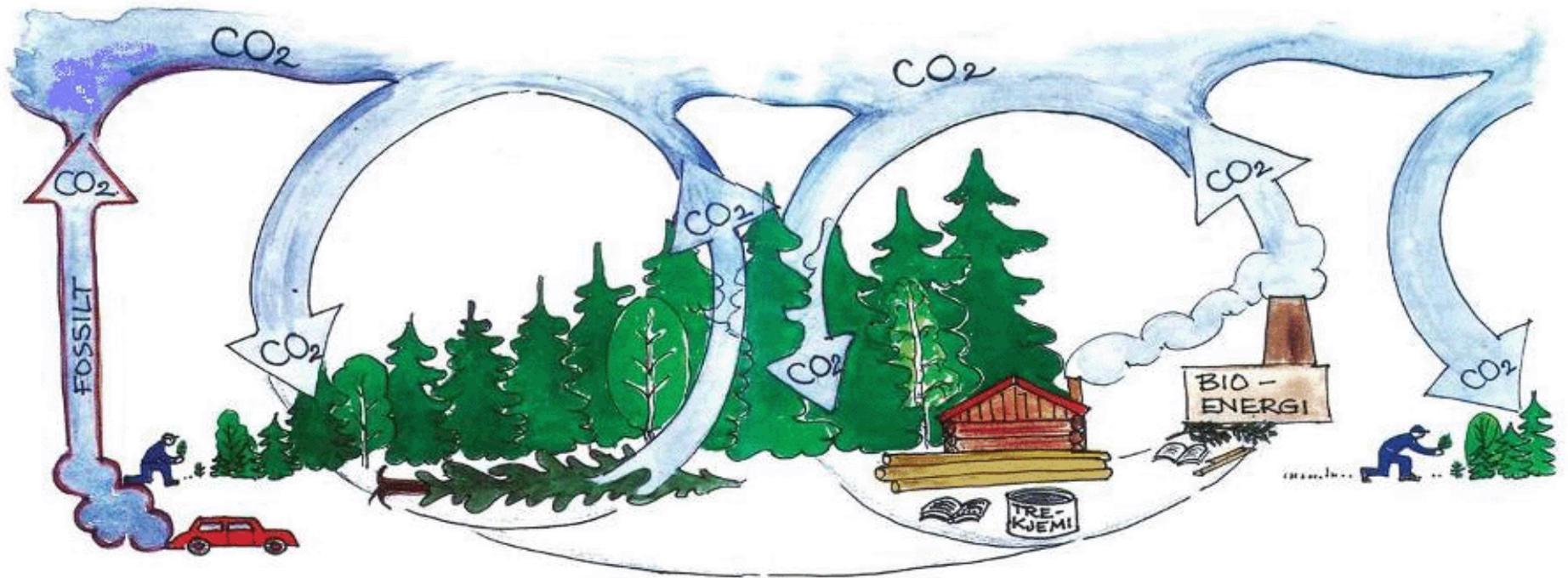
木材生産

1980年に2位

1999年に9位まで低下

2015年4位まで回復

持続的利用可能な資源 カーボンニュートラルな資源



森林環境教育

森林環境教育の変遷

- 野外活動（キャンプ、飯盒炊爨・・・）
（みどりの少年団
ボーイスカウト、ガールスカウトなど）
- 森づくり活動（植林、下草刈りなど）
国土緑化推進機構の助成や企業の森など
- 自然観察
- ネイチャーゲーム
- 森林インストラクター

- これらの活動は野外活動や森林を含む自然観察が中心
- 森づくり活動も広葉樹の植林など、木材の利用とはあまり結びつかない。
- 人工林においては下草刈や除間伐など保育中心
- 日本では教育の中に経済要素が含まれるのを嫌う？
- 森林環境教育と林業は関わり合いが薄い。
- むしろ木を伐ることを森林破壊と短絡し対立する場合も
- 或は人工造林に対する批判的な見方も

↑多くは誤解に基づく

- 「木育」の登場

- 平成16年北海道「木育プロジェクト」

～木とふれあい、木に学び、木と生きる～

人と、木や森の関わりを主体的に考えられる豊かな心を育む

北海道庁HPより

- 平成18年「森林・林業基本計画」

市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深める・・・「木育」と呼称・推進

(財)日本木材総合情報センターHPより

- 東京おもちゃ美術館 グッドトイ、ウッドスタート 木育インストラクター制度

- 「木づかい運動」
- 平成17年度から林野庁が推進する国産材利用の普及啓発を活動としての国民運動
- ロゴマークを通じたPR

京都議定書京都議定書で定められた日本の森林による1300万炭素トンのCO2吸収の目標達成のために、森林に感謝(サンキュー)しながら、その目標達成に向かって国産材製品を身近に取り入れていただき利用拡大を図る「木づかい運動」のシンボルマーク。計算方式の変更から

排出削減目標6%のうち3.9%から3.8%へ変更

平成22年度より「木づかいサイクルマーク」へ

林野庁HPより



- 「木育」「木づかい」とも木を使うことの普及啓発

- 森林との関わりを十分伝えられているか？



LEAF

Learning About Forests



FEE 環境教育基金
Foundation for Environmental Education

LEAFとの出会い

- 2008日本林業経営者協会 北欧視察 の幹事
- 当時のスカンジナビア政府観光局の伊藤さんにコーディネートを依頼
- ノルウェーでLEAFの紹介を受ける
- それまで森林環境教育を行ってきたが、方向性に悩む
- ノルウェーでは 森林所有者の組織が「森林教育」を行っている
対象 従事(予定)者、所有者、一般特に子ども

- 森林所有者の団体が子ども向けの森林教育を行う理由を尋ねる
- 「子どもは大人になり消費者になり私たちの木材を買ってくれる。政策立案に携わるかもしれない。そのような子どもたちに我々のこと知ってもらうことが重要だ」
- 自分が森林教育を行う理由が腑に落ちた瞬間
- 翌年からLEAFの日本導入に向けスタート

2) LEAFは

持続可能な未来のための、
よいよい選択のできる人を育てるプログラムです

キーワード: 6つのステップ と 4つの側面



LEAFの6つのステップ



森林や林業、木材を**使うこと**について学ぶ 経済的、社会的側面

LEAFの成り立ち ノルウェーの例

- 30年ほど前、林業経営は厳しい状態に陥る（人件費高、木材以外の資源との競合、発展途上国等からの木材の流入）
- 森林所有者等で作る組織と行政が共に目標を作る
- 20年でノルウェーの木材の「消費」を2倍に



そのために

将来の消費者である子どもたちに
森林や林業教育を実施

結果



- 子どもたちの間で林業が「かっこいい」職業に
- 家を建てる時、物を買う時、常に「自国の材」を意識
- 「材」をより付加価値のあるものへ

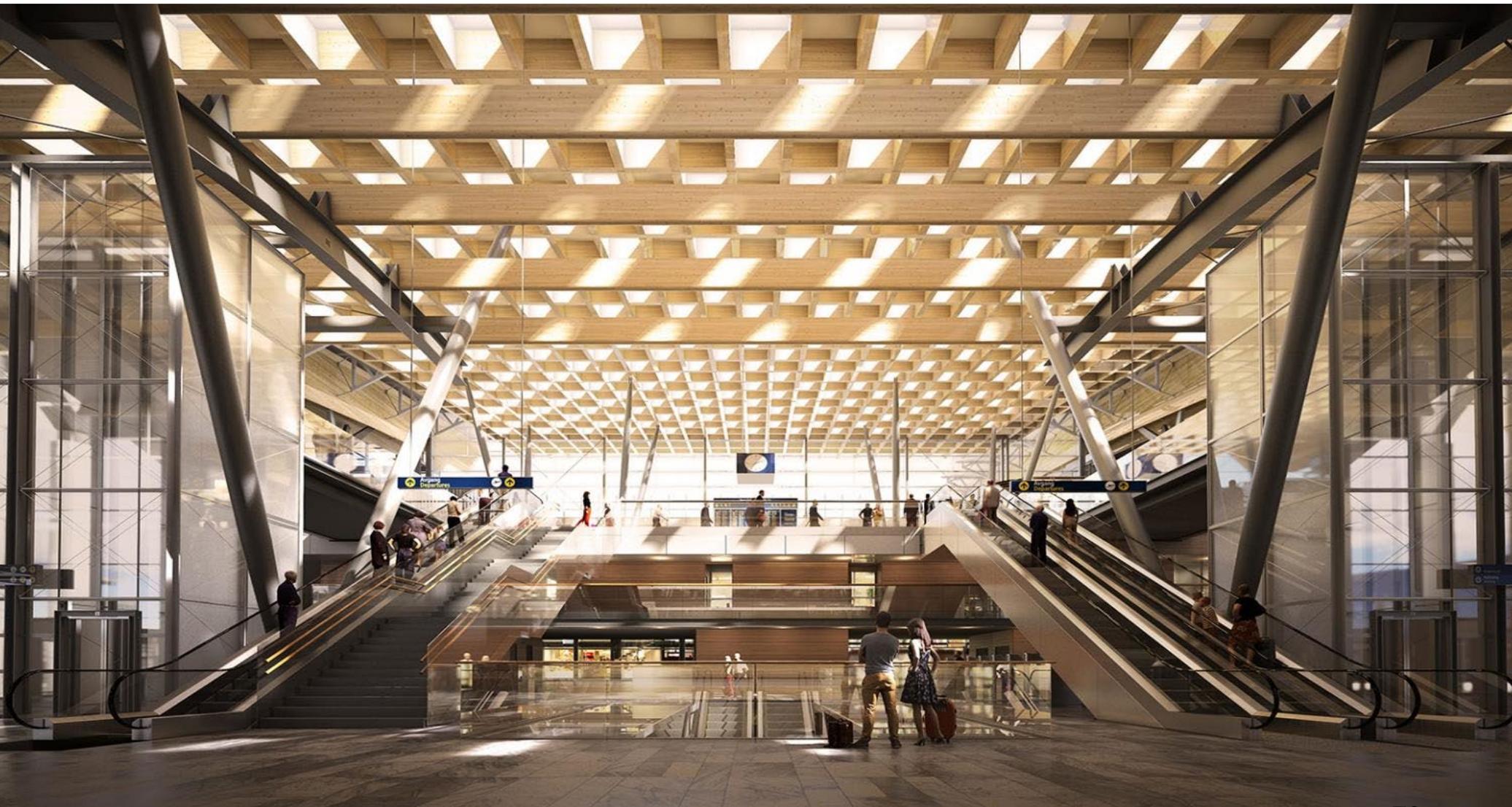
その結果

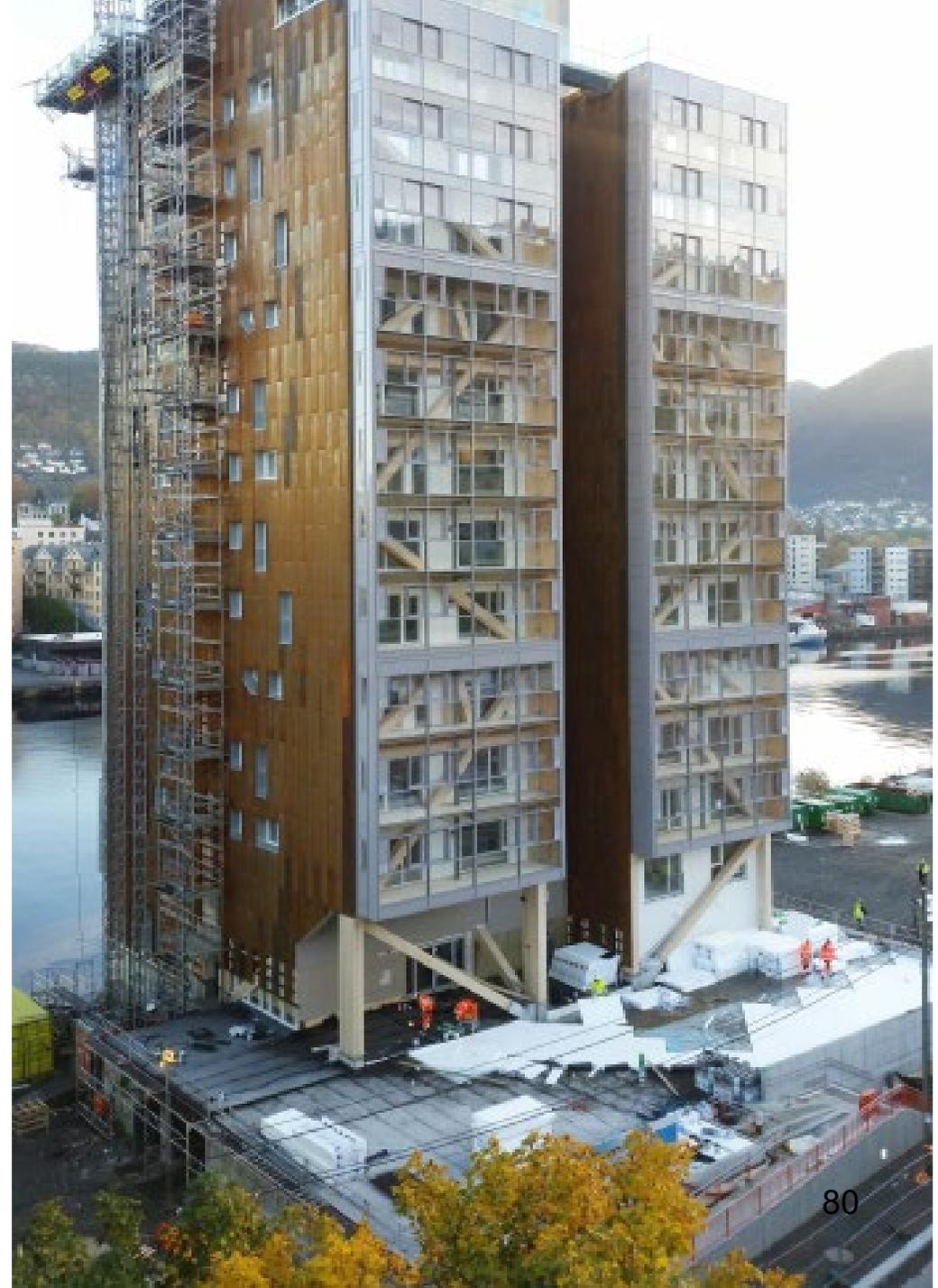
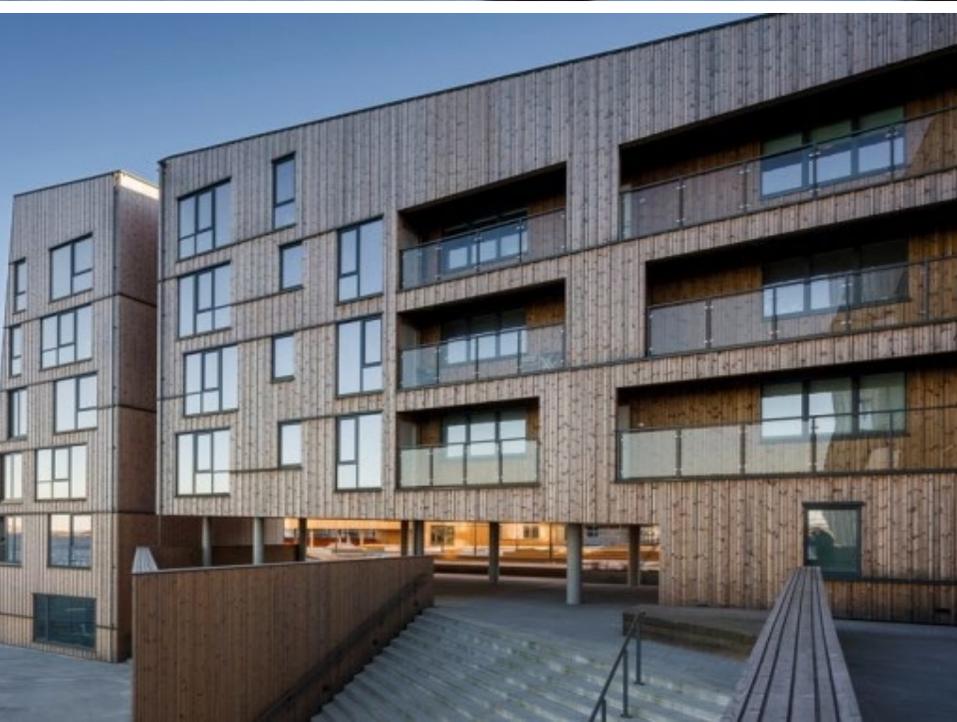


林業は重要な産業として位置付け

- 建築に適さない木材→木質バイオマス
- 国民の理解のもと炭素税等を導入
- オスロの空港にも木が使われている
- 木造の高層建築（建築物を扱う役所の人間も森林や木材について理解している）
- 世界一高いビル
- さらに付加価値のあるものへ
（医療用品、セルロース）







高さ85m 18階建て 木造ビル
ノルウェー ミョーストネット





かしこい選択

何が正しいかを覚えることではなく、持続可能な社会のあるべき姿を考え、そのための選択ができる

目の前の開発が及ぼす未来への影響を考えて、自らが生きるこれからの持続可能な発展を考え、選択することができる

- 地元小中学校の授業、職業体験
- 三重高校
- 三重大附属中学校
- LEAFインストラクターとしての活動
 - グリーンサンタ基金寄贈先 東北地方
 - アサヒビール社有林など
- 無垢材需要の拡大にむけた取り組み
 - JBN、日本木青連などとのプロジェクト
 - 木の取り扱い説明書づくり

慶應志木の森

- 1996年より慶應義塾志木高等学校生による
活動 志木の森 深山(ヒノキ) 里山(雑木林)
- 当初は植林、下草刈
- 現在 深山 枝打ち、間伐、調査
里山 小面積伐採、更新調査、利用
(薪、炭用材)

レクリエーション(BBQ、キャンプファイヤー、カヌー等)
座学(森林、林業)、伊勢参り、

三重県 慶應志木の森 深山・ 里山



深山 1999年(植栽後2年)

里山 1999年(植栽時)



志木の森里山での作業体験



森林の利用



(古くて)新しい木材需要

株式会社 ひのき家

2011年1月設立

薪ストーブの輸入、施工、販売
薪の製造販売

日本(三重)の木の楽器プロジェクト
ひのきギター ウクレレ(松ギター堂)
カホン(越後カホン)

バンド「ザ・ヒノキーズ」

山からの贈り物など



- ミエトイ



クッブ



クツブ

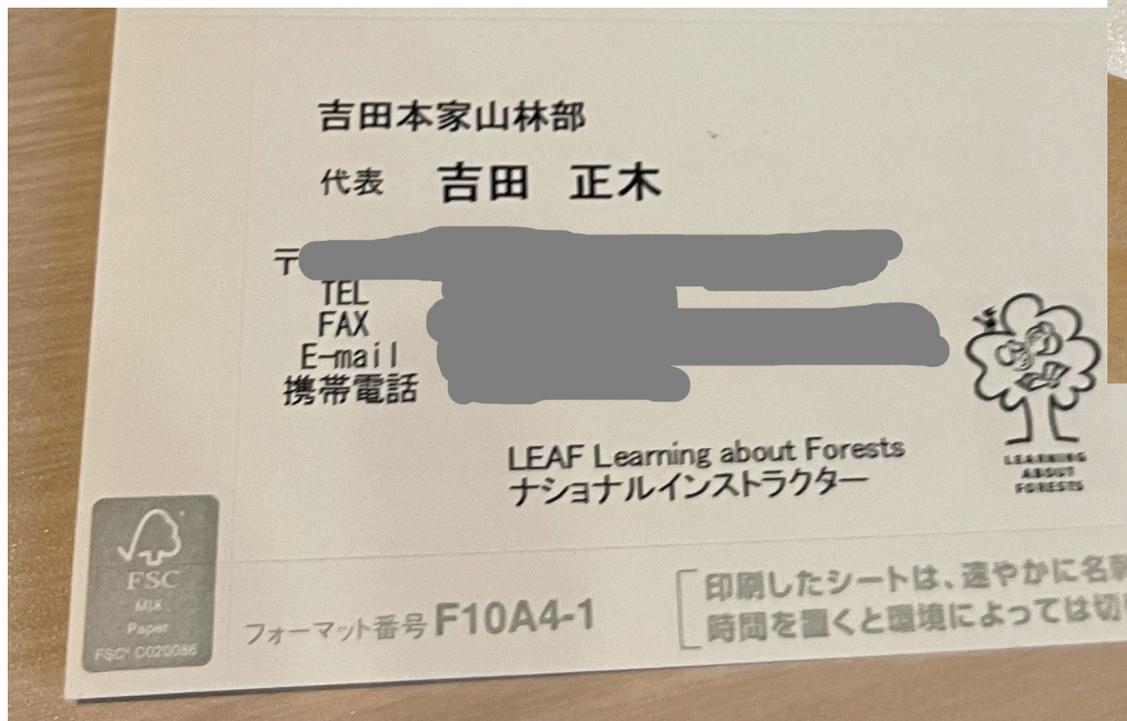


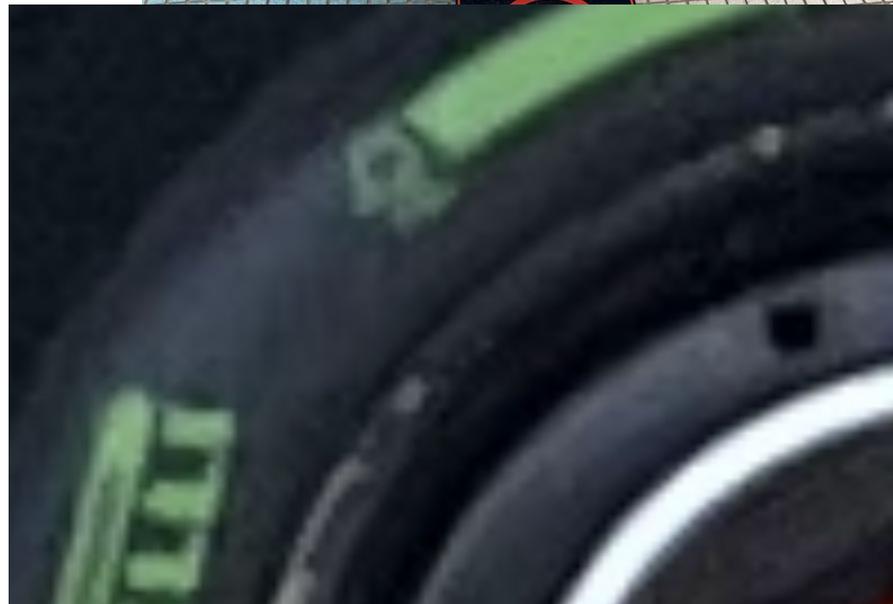
林業経営者が森林環境教育を行う理由

- 自分たちの生産する木材を適切な価格で使ってくれる消費者を育てる
- こどもの頃から木や森に触れ、親しみ、木材の利用を通して森と人との関わりについて知るきっかけをつくる
- 森林の多様な価値を伝え、みんなで森林を支える社会を目指す

森林認証について思うこと

- 紙製品は認証が当たり前





木材でも認証をスタンダードに



認証終了後の当社材使用事例

- 認証の意義は引き続き理解している
- 日常紙製品はFSC認証紙を優先購入しているが、家族や別会社スタッフにまでは勧めきれず。
極力自分で購入するようにしているが
先に非認証製品やPEFC製品を買われ
がっかりしている。
- 毎年の年次監査が無くなり、費用負担は減った
- 資料をまとめることをサボってしまい、様々なアンケートや今回のような、講演の依頼の度にデータをがさがさ集め時間を無駄にしている。

- 地域でのグループ認証に入る体制が整えば再度FMを取得したい。
- その時にはFSCのジャパンの会員にも戻りたいと思いますのでよろしくお願いします。

おわり